心連心
Heart to Heart

第12期

鎌倉にて

## 心連心：中国高校生長期招へい事業

# 報告書

平成29（2017）年9月5日―平成30（2018）年7月14日

# 目次


はじめに…… 3

事業紹介…… 4

生徒名簿…… 5

思い出のアルバム…… 6

心連心ウェブ日記…… 14

第12期生に聞きました！ …… 16

第12期生好きなものランキング …… 20

帰国を前に －作文集－ …… 21

第12期生を受け入れて …… 50

あとがき…… 56


心連心：中国高校生長期招へい事業

# 第12期 報告書

# はじめに

「心連心：中国高校生長期招へい事業」第12期生が無事、本年7月に帰国しました。
全国20都道府県での留学期間中は、受入校、ホストファミリー、地域の皆さまに温かく見守っていただく中、一人ひとりが様々に貴重な経験を重ねることが出来ました。ここに心から御礼申し上げます。

約1年間の日本での留学生活の時間の経過はとても早く、そしてその間の中国人高校生の心身の成長は驚くほど早いと実感しています。来日直後のなんとなく頼りない、あどけなかった顔つきが、日本各地で充実した高校生活を体験し、周りの方々に温かく支えられながらも、いろいろな困難に直面し、それらに正面から取り組み、乗り越えてきた自信から、今や日中の次世代を担うべき人材として頼もしい若者に育ってくれています。彼らの成長ぶりを傍らで実感できるのは、本長期招へい事業立ち上げ当初の制度設計時から深く関わった人間として、望外の喜びと事業発足以来12年間という時間の経過をかみしめています。

今年もまた涙あり、笑いありの熱いドラマが日本全国津々浦々で展開されました。この報告書にも感動的なエピソードが、彼らなりの感受性にとんだ豊かな言葉でちりばめられています。彼らそれぞれが自分の言葉で綴った作文を是非ご一読いただければ幸いです。

「心連心：中国高校生長期招へい事業」の卒業生は、第12期生を含めると累計390名にのぼります。平成30年秋現在、うち4割を超える165名が再び日本に戻ってきて、日本の大学・大学院へ進学したり、日本で就職し社会人となって活躍しています。いま現在の居住地が日本でも中国でも、或いはその他の国であっても、多くのOB・OGが、高校時代の日本留学経験を糧に自分の夢や目標に向かって進むかたわら、当センターが実施する様々な日中交流事業に参加してくれたり、自ら日中交流プログラムを企画・運営する等しています。「日中交流の輪を広げたい」と積極的に活動する彼等の頼もしい姿を見ることは、我々にとって大きな喜びです。

日中両国の青少年が互いの絆を深めながら共に成長していけるよう、当センターではこれからも倍旧の努力を重ねて参ります。第12期生の受入にご協力くださった皆様にも、引き続きご支援・ご協力のほど、宜しくお願い申し上げます。

**独立行政法人国際交流基金　日中交流センター**
**所長　堀 俊雄**

# 「心連心：中国高校生長期招へい事業」とは

「心連心：中国高校生長期招へい事業」は、未来志向の日中関係を築く礎として、より深い青少年交流を実現させるため、日中両政府間の合意に基づく事業としては初めての中国人高校生の長期招へい事業として、2006年度に開始されました。本事業では“心と心をつなぐ”をモットーに、「心連心」というプログラム名称を用いています。

中国政府の推薦と国際交流基金の選考を受け、本事業の第12期生として2017年9月5日より来日した中国人高校生30名は、日本各地に滞在し、様々な活動を通じてホストファミリーや日本の高校生たちとの絆を深めました。

本事業は、中国の高校生に日本滞在の機会を提供し、その生活を通して日本の社会と文化を知ってもらい、同時に日本の高校生たちにも同年代の中国の高校生と交流する機会を提供するものです。直に交流し、心と心を結び合うことで、日中両国の長期的な関係発展の基礎となる若い世代の信頼関係を築くことを目指しています。

## 実施概要

| | |
|---|---|
| 期間 | 2017年9月5日～2018年7月14日 |
| 実施体制 | 中国国内での招へい生選考……国際交流基金と中国教育部が共同で実施<br>日本国内における受入れ……受入校と国際交流基金が共同で実施 |
| 招へい生徒 | 全30名（女子20名、男子10名）<br>第12期は、北京市、天津市、河北省、山西省、遼寧省、吉林省、上海市、江蘇省、福建省、山東省、河南省、湖北省、湖南省、四川省、陝西省、広東省、江西省より選抜 |
| 国内受入地 | 北海道、岩手県、秋田県、埼玉県、東京都、神奈川県、長野県、愛知県、三重県、京都府、大阪府、和歌山県、広島県、佐賀県、大分県、長崎県、宮崎県、熊本県、鹿児島県、沖縄県 |
| 経費負担 | 学費や教科書代・副教材費、制服代など生徒が学校に支払うべき経費を上限100万円（寮の場合は150万円）の範囲内で国際交流基金が支弁 |
| 協賛 | カシオ計算機株式会社、株式会社資生堂、三菱UFJ銀行 |

# 「心連心：中国高校生長期招へい事業」第12期生名簿

| No. | 氏名 | 性別 | 出身校 | 受入校 | 都道府県 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 路欣平 | 女 | 洛陽外国語学校 | とわの森三愛高等学校 | 北海道 |
| 2 | 傅昱涵 | 男 | 済南外国語学校 | 立命館慶祥中学校・高等学校 | 北海道 |
| 3 | 劉謙君 | 男 | 天津外国語大学附属外国語学校 | 盛岡中央高等学校 | 岩手県 |
| 4 | 張嘉琪 | 女 | 上海市甘泉外国語中学 | 明桜高等学校 | 秋田県 |
| 5 | 江　娉 | 女 | 福州外国語学校 | 埼玉県立蕨高等学校 | 埼玉県 |
| 6 | 韓浜澤 | 女 | 東北育才学校 | 東京学芸大学附属国際中等教育学校<br>大口明光学園中学校・高等学校 | 東京都<br>鹿児島県 |
| 7 | 張禹羲 | 男 | 西安外国語大学附属西安外国語学校 | 横須賀市立横須賀総合高等学校 | 神奈川県 |
| 8 | 賈　雯 | 女 | 長沙外国語学校 | 長野県長野西高等学校 | 長野県 |
| 9 | 趙一青 | 女 | 北京十一学校 | 光ヶ丘女子高等学校 | 愛知県 |
| 10 | 韓芸琳 | 女 | 吉林省和龍市高級中学 | 桜丘高等学校 | 愛知県 |
| 11 | 尹一茜 | 女 | 成都外国語学校 | 三重高等学校 | 三重県 |
| 12 | 王子涵 | 女 | 済南外国語学校 | 京都府立鳥羽高等学校 | 京都府 |
| 13 | 劉恩銘 | 男 | 武漢外国語学校 | 立命館宇治中学校・高等学校 | 京都府 |
| 14 | 趙楚軒 | 女 | 天津外国語大学附属外国語学校 | 立命館宇治中学校・高等学校 | 京都府 |
| 15 | 施奕璘 | 女 | 上海市甘泉外国語中学 | 大阪府立三島高等学校 | 大阪府 |
| 16 | 羅清麟 | 男 | 広州外国語学校 | 清風南海中学校・高等学校 | 大阪府 |
| 17 | 陳天行 | 男 | 太原市外国語学校 | 和歌山県立橋本高等学校 | 和歌山県 |
| 18 | 劉雯珊 | 女 | 福州外国語学校 | 広島市立舟入高等学校 | 広島県 |
| 19 | 禹林強 | 男 | 吉林省和龍市高級中学 | 龍谷高等学校 | 佐賀県 |
| 20 | 張　睿 | 女 | 北京市月壇中学 | 活水高等学校 | 長崎県 |
| 21 | 梁天楽 | 男 | 河北唐山外国語学校 | 長崎県立壱岐高等学校 | 長崎県 |
| 22 | 馬文治 | 男 | 南京外国語学校 | 岩田中学校・高等学校 | 大分県 |
| 23 | 許明皓 | 男 | 河北唐山外国語学校 | 岩田中学校・高等学校 | 大分県 |
| 24 | 張添淇 | 女 | 長春日章学園高中 | 熊本県立宇土中学校・高等学校 | 熊本県 |
| 25 | 申雪晴 | 女 | 東北育才外国語学校 | 日章学園高等学校 | 宮崎県 |
| 26 | 孫　榕 | 女 | 済南外国語学校 | 鹿児島県育英館高等学校 | 鹿児島県 |
| 27 | 夏夢琦 | 女 | 東北育才学校 | 鹿児島県立武岡台高等学校 | 鹿児島県 |
| 28 | 丁博思 | 女 | 深圳外国語学校 | 神村学園高等部 | 鹿児島県 |
| 29 | 代澤瑞 | 女 | 武漢外国語学校 | 大口明光学園中学校・高等学校 | 鹿児島県 |
| 30 | 万天怡 | 女 | 南昌市外国語学校 | 沖縄県立向陽高等学校 | 沖縄県 |

※20張睿、29代澤瑞は体調不良のため途中帰国

思い出のアルバム

# 来日研修 in 東京

2017年9月5日－9月9日

2017年9月5日、第12期生30名が成田空港に降り立ちました。これから約11ヶ月の留学生活に先立ち、それぞれが生活する地へ出発する前に、東京都内で4泊5日の「来日研修」を実施しました。
日本で生活していく上でのルールや食事マナーなどの生活指導、地震等自然災害に備えた防災訓練を受けたり、実際に街に出かけて、電車の切符の買い方・乗り方や日本の交通ルールを学ぶ「街歩き」研修も行いました。
「来日歓迎レセプション」では、一人ひとりが日本語で自己紹介をしました。受入校の先生やホストファミリーとの初対面を果たした12期生たちは、始めのうちは緊張もあり少しぎこちない様子でしたが、すぐに楽しげな笑い声があちこちから聞こえてきました。第12期生の成長の軌跡をどうぞご覧ください！

心連心ウェブサイトからも来日歓迎レセプションの様子をご覧下さい。
http://www.chinacenter.jp/japanese/invitation/now/record/048.html

日本到着!!

外務省表敬訪問

学校の先生と
ドキドキの初対面

日本の街を歩いてみよう！
in中野

池袋防災館で
地震を体験

来日歓迎レセプション

中国大使館表敬訪問

ホストファミリーとの初対面

日本の食事マナーを学習中

日本の留学生活についての心得を学びました

思い出のアルバム

# 私たちの日常

同期の仲間達と離れ、日本全国それぞれの留学先で、新たな生活をスタートさせた第12期生たち。日本語で行われる授業、想像よりもずっと厳しかった部活動、中国とは違った文化祭や体育祭などの学校行事、電車や自転車での登下校・・・・初めての経験の連続でした。日本の習慣がわからず戸惑ったり、失敗したり、挫けそうになったり、さまざまな辛いこと、悔しいことも経験しました。それでも11ヶ月の留学生活を過ごして来られたのは、周りの友達や学校の先生、寮の仲間たち、ホストファミリーの支えがあったからこそ。日本でのかけがえのない思い出は、いつも皆が一緒でした。

第12期生たちの日常をつづった留学日記もどうぞご覧下さい。
http://www.chinacenter.jp/diary/index/term:12

日本の伝統的な部活動に入部

お正月のしめ縄作り

大切な仲間達

日本語弁論大会やボランティア活動にも参加

地元のお祭りに参加

クラスの皆と楽しい修学旅行

思い出が詰まった学生寮

楽しい思い出がいっぱい

書道部でパフォーマンス

部活の仲間たちと

障子の張替をお手伝い

日本でかわいい弟ができました

ホストファミリーとお出かけ

沖縄の踊りを体験

思い出のアルバム

# 中間研修 in 埼玉・神奈川

2018年1月29日－2月2日

来日から約半年経った2018年1月下旬、埼玉県にある国際交流基金日本語国際センターにて、「中間研修」を行いました。生徒たちがそれぞれの生活地で過ごした半年間の留学生活の中で直面した悩みや問題を共有し、その問題の背景にある原因及び解決方法・対策案を探りました。また、各生活地の名産品や観光地、学校、部活動などについて、写真を交えながら一人ずつ発表し、紹介し合いました。

研修4日目には、フィールドワークで神奈川県鎌倉を訪問しました。大仏で有名な高徳院や鶴岡八幡宮の見学の他、着物着付け体験も行いました。また、夜は新横浜のラーメン博物館で夕食を楽しみました。

半年振りに同期生が集い、日本語の上達や精神面での成長した姿にお互いに大いに刺激をうけたようです。12期生たちは、充実した研修を終え、残り半年の留学生活に向けて改めて気合を入れなおし、それぞれの留学先に戻っていきました。

心連心ウェブサイトからも12期生中間研修の様子をご覧いただけます。
http://www.chinacenter.jp/japanese/invitation/now/record/049.html

日中交流センター所長との対談

半年間の成果発表

心連心の先輩達の貴重な経験談

半年振りの同期生との再会

皆と悩みや課題を共有

研修内容の総括

着物着付け体験

鎌倉・横浜でフィールドワーク

日本のラーメンおいしい～

思い出のアルバム

# 帰国前研修 in 埼玉・東京

2018年7月11日－7月14日

2017年9月に来日し、約11ヶ月の留学生活を終えた第12期生は、2018年7月14日、無事に帰国の日を迎えました。楽しいことだけでなく、辛いこと、苦しいこともたくさん経験してきた彼らは、来日の時と比べて見違えるほど成長し、堂々とした姿を披露してくれました。帰国前日の「帰国前報告会」では、部活動や学校行事、ホストファミリーとの思い出など、日本での留学生活で自らの感性で感じ、学んだことを流暢な日本語で発表してくれました。報告会の最後には、全員に修了証書が手渡され、みな達成感に満ちた晴れやかな表情を見せてくれました。

第12期生の留学生活はこれで終わりになりますが、彼らにとってはここからが始まりです。この11ヶ月で得た経験を糧に、将来の夢に向かって一所懸命に努力し、日中友好の架け橋として大きく羽ばたいてくれることを心から願っています。

心連心ウェブサイトからも12期生帰国前研修の様子をご覧いただけます。
http://www.chinacenter.jp/japanese/invitation/now/record/050.html

ホストファミリーからプレゼントをもらって感激

留学生活の成果を発表

修了証書授与式

皆さんへ感謝のメッセージ

東大見学・浅草観光

もんじゃ焼き初体験

東大の心連心先輩たちと

江戸東京博物館見学

10年後の自分に向けて
手紙を書きました

ホストファミリーが
見送りにきてくれました

皆さん、一年間有難うございました！

また会う日まで！

# 心連心ウェブ日記

日中交流センターのウェブサイトでは、中国人高校生たちが留学生活で感じたこと、考えたことを、彼ら自身の言葉で綴った日記をご覧いただけます。今回は12期生の日記ランキングと、その中から特にお勧めの日記をご紹介します。この他にも、部活動、ホストファミリーとの交流、学校行事、季節行事など、色々なテーマで日記を書いてくれました。ぜひ心連心ウェブサイトから彼らの瑞々しい日記をご覧ください。

http://www.chinacenter.jp/diary/index/term:12?lang=ja

それではお勧め日記を4編抜粋してご紹介します。
より詳しい内容は、ウェブサイトからご覧ください。

## ホームステイの生活初印象

陳天行くん（和歌山県）　投稿日：2017/9/18

http://www.chinacenter.jp/diary/view/14703?lang=ja

一週間前、新幹線のチケットが手に渡された時から、私のホームスティ生活が始まりました。

家族は普段それぞれの部屋にいて、食事の時はみんなリビングルームに揃って、食事しながら、喋ります。三人がよく料理をコメントしたり、学校のことを話したりします。時々ニュースやドラマなどもみます。自分の日本語のレベルは低いし、日本の生活にまだ慣れていないし、よくお母さんかお父さんに分からないものを教えてもらいます。みんなは真正な家族のように楽しく日々を過ごしています。異郷にも温かい家庭があって、自分が本当に幸せだと思っています。

もうすぐ強い台風がきますが、こんな温かい家にいて、護られている感じがします。この家で、後の10か月を充実に過ごすと期待します。

日本の細かいゴミ分別表にびっくり！

この町で日本生活をスタート

## 日本のお正月

韓浜澤さん（鹿児島県）　投稿日：2018/1/4

http://www.chinacenter.jp/diary/view/15004?lang=ja

ホストファミリーは毎年心を込めて、年賀状を作成し続けています。年賀状の上で載せたキャラクターや文字などは、子供たちが自分でデザインしたものです。家族の集合写真も各自の新年の抱負も書き載せてあります。過去何年分の年賀状を見せてもらい、ものすごく趣があると感じました。そして他人から届いてもらった年賀状を楽しんで、書き手の気持ちを味わえました。新年を祝う言葉だけではなく、昨年の感謝と来年に厚情を依願する気持ちも持つものだと思います。

現在の中国で、メールやSMSで済ましてしまい、毎年年賀状を送る人はあまりいません。人間関係がだんだん冷淡になった社会にしては、もし日本と同じで、電子メッセージを代わりにこういう手段を定着させたらどうでしょうか、私は考えずにはいられません。スクリーンを簡単にクリックして、誰にしても全く同じようなメッセージを送ることに比べて、一葉ずつの年賀状で、相手に伝いたいことを書いておいたほうがいいと思います。ずっと会えない友達に、ちょっとした心遣いで時間をかかって気持ちを伝えてほしいです。

年越しそば

ホストファミリー手作りのおせち料理

## アクセス数ランキング ベスト5!!

| | | |
|---|---|---|
| 1位 | 日本のお正月 | 韓浜澤さん／鹿児島県（162回） |
| 2位 | ホームステイの生活初印象 | 陳天行くん／和歌山県（135回） |
| 3位 | 勉強について | 劉謙君くん／岩手県（121回） |
| 4位 | 鹿児島県立武岡台高校 | 夏夢琦さん／鹿児島県（117回） |
| 5位 | 浅草で着物体験 with 沢ちゃんとHF全員 | 江娉さん／埼玉県（110回） |

※カッコ内の数字はページ閲覧数

## 日記投稿数ランキング 上位3名!!

| | | |
|---|---|---|
| 1位 | 尹一茜さん／三重県（97回） | |
| 2位 | 趙一青さん／愛知県（94回） | |
| 3位 | 江　娉さん／埼玉県（51回） | |

女性が上位3位を独占しました！
やはり女子の方が筆まめなのでしょうか。

たくさん投稿してくれた上位3名に小さな記念品を贈呈

### 人生の一期一会　趙一青さん（愛知県）　投稿日：2018/5/9

http://www.chinacenter.jp/diary/view/15248?lang=ja

日本に来て、皆さんとの『一期一会』のおかげで、この言葉を理解できるようになりました。「お客さまとの出会いも、お茶との出会いも、『一期一会』だからこそ、心を込めて最高のおもてなしをしましょう」と、茶道の先生がおっしゃいました。とてもシンプルな一言ですが、私の頭の中にスッと入ってきました。茶碗の拭き方や茶巾の置き方にいつも悩んでいた私は、「お客様に美味しいお茶を飲んでもらおう」と思ったことは一度もありませんでした。先生の言葉を聞いて反省しました。「一期一会を忘れてしまっては、たとえお手前の流れを全部覚えられても、茶道を習得したとは言えないでしょう。
これからの人生の中で、一つ一つの戻らない瞬間を大切にして、生きていきたいと思います。

茶道との出会い

「一期一会」の気持ちで
お手前の練習

### 鹿児島県立武岡台高校♡　夏夢琦さん（鹿児島県）　投稿日：2018/7/9

http://www.chinacenter.jp/diary/view/15186?lang=ja

最後の一週間を迎えました、32人のメッセージカードを書いて、先生にプレゼントを準備して、自分もそろそろこの一年間を過ごしたところから出る頃になりました、最後の日に皆からたくさん手紙を書いてもらい、担任先生からも手紙とプレゼントをもらいました。みんなは私をバス停までに見送りしてくれました。涙は本当に止まることができなかった。先生の手紙に書いた通り、武岡台高校の教育理念はドイツ語で Mit leben 日本語で共に生きなんという意味です、私達も将来、物理的距離を超えることができると思って、違う国でも共に生きることができると思います。
皆と一緒に過ごした一年間はいつまでも人生の宝物ものです。一年間本当にお世話になりました、ありがとうございました！

感謝の気持ちを込めて
クラス全員に書いたお手紙

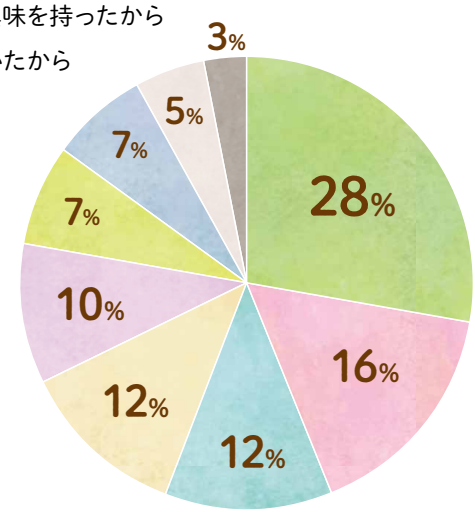
皆からもらったたくさんのお手紙

# 第12期生に聞きました！

日本で約1年間を過ごした12期生たちに色々な質問をしてみました！

## Q 日本語を勉強し始めたきっかけは何ですか。

- アニメ・漫画
- 伝統文化
- 成績の関係で日本語学科になったから
- 親・先生からの薦め
- 日本に旅行して興味を持ったから
- 友達が勉強していたから
- 小説・書籍
- J-POP
- ドラマ

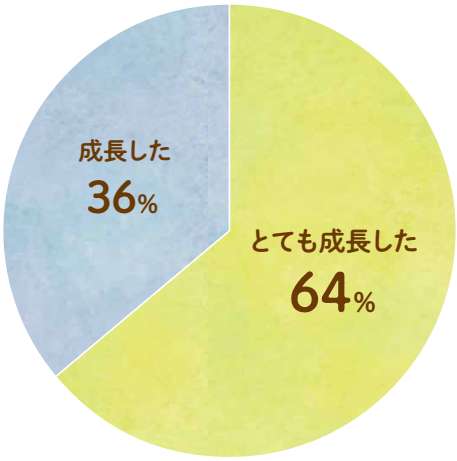


**Comment**

国際交流基金が2015年に行った海外日本語教育機関調査によると、中国の日本語学習者は世界最大規模を誇っており、アニメやマンガ、ファッション、ポップカルチャー、観光等への興味・関心をきっかけに日本語を学び始める人たちが増えているようです。
第12期生たちも学習動機の1位に挙げたのが「アニメ・漫画」でした。「伝統文化」への関心が高いこともうかがえます。「日本に旅行して興味を持った」という理由が挙がっていることも目を引きますね。「日本の自動車産業に興味を持っているから」と答えた生徒もいて、日本車の人気の高さが日本語学習にも繋がっていました。

## Q 自分はどのくらい成長したと思いますか？

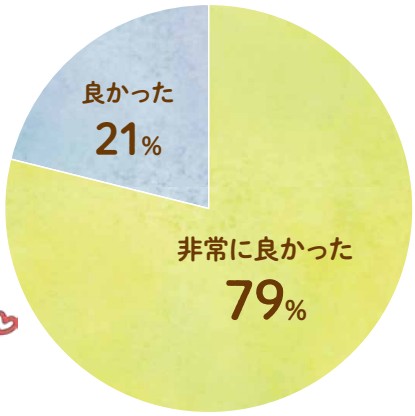
- 他人の気持ちを考えられるようになった
- 自己管理能力が上がった（自分のことを自分でやるようになった）
- 色んな人に感謝の気持ちを持つことができるようになった
- 辛くても最後までやり抜くことができるようになった
- 視野が広がった
- 心が強くなった
- 積極的になって、知らない人にも話しかけることができるようになった
- 体力がついた
- 将来のことを考えられるようになった



## Q ホームステイ・寮生活は良かったと思いますか？

### ホームステイ

・日本の家族（故郷）ができた
・毎日美味しい料理を食べることができた
・ホストファミリーに色々なアドバイスをしてもらえた
・兄妹がいる感覚を味わうことができた
・本当の家族みたいに間違えた時は怒ってくれて、嬉しい時は一緒に喜んでくれた




### 寮生活

・一緒に生活し、一緒に過ごし、遊び、良い仲間ができた
・きれいな住環境だった
・寮長さん、寮母さんにも親切にしてもらい大変お世話になった
・寮生とは勉強以外の絡みもあり深いつながりができた

## Q 楽しかったこと・感動したことはなんですか？

### 学校生活

・みんなと温泉に入った
・体育祭の時クラス皆で同じTシャツを着て応援した
・剣道部で最後の稽古をつけてもらっている時、
辛い時も理解してくれた先生とのこれまでを思い出して面をつけたまま泣いてしまった
・入院している時にクラスメイトがお見舞いに来てくれて感動した
・修学旅行のときに夜中までみんなとおしゃべりした
・部活の仲間とカラオケに行った時、自分が歌っている歌をみんなが一緒に歌ってくれた
・お別れの時のこと。（クラスメイトや部活仲間から手紙やプレゼントをたくさんもらった、
送別パーティーを開いてくれた、駅まで見送りに来てくれた・・・など）
・すごく良い友人ができて、再会を約束した
・自分のことをたくさんの方が支えてくださり、助けてくれた

### 思い出に残ったイベント（学校或いはホストファミリーの家で）

お正月　（初詣、おせち料理作り、お寺での鐘撞き、餅つき、鍋パーティー）
お花見　（桜の木の下でお弁当を食べた、桜吹雪、夜桜）
体育祭　（応援、騎馬戦、クラス対抗戦（団結の重要性）
その他　花火大会、クリスマスパーティー、遠足、修学旅行、合唱コンクールなど、クラスの皆さんと一緒に過ごした思い出

## Q 日本の生活で大変だったこと、辛かったことはなんですか？

### 言葉

・最初の頃、学校でもホストファミリーのお家でも言われていることが分からなかった
・授業の内容が理解できなかった

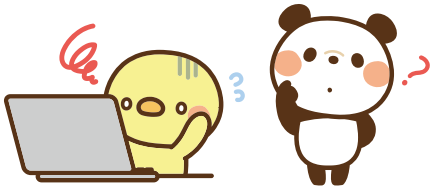
### 交流

・クラスメイトや寮生の輪に入ることが難しかった
・話しかけることもできず、クラスに溶け込めなかった

### 生活

・通学時間、満員電車
・冬の寒い時でも制服はスカート
・（寮で）みんなと一緒に風呂に入る
・ホームシック

## Q 日本で面白いと思ったことはなんですか？



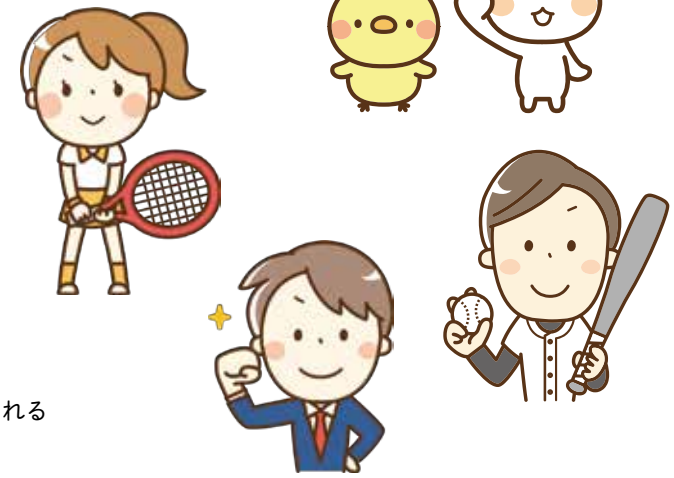
### 日常生活

・大人でもアニメを見る
・美容室の予約を取る
・ATMの手数料が曜日や時間によって違う
・りんごを切って食べる
・車よりも通行人を優先している
・箸は横向きに置く
・「すみません」「ごめんなさい」「ありがとう」をたくさん言う
・地震が起きてもあまり驚かず慌てない

### 学校生活

・体育の授業前に皆で一緒に着替える　（※中国の学校では1日中ジャージだから着替えない）
・家庭科のような人生に役立つ授業がある
・宿題が少なくて自由時間が多い
・昼寝の時間がない
・ホームルームがある
・容姿検査が厳しい
・学校では上履き、体育館に入る時は体育館履き、外は外の靴、と色々履き替える
・学校にPTAがある。中国の学校にはない
・教科書は綺麗に使い、ノートにたくさん書き込む
・縦書きの教科書がある（現代文と古典）
・昼休みは教室でお弁当を食べる（中国では外の飲食店に食べに行ったり食堂で食べるのが一般的）

## Q 日本の良いところを中国の人たちに紹介するとしたら?



・勉強と部活の両方を頑張っている
・電車に乗る時など、意識が高くてマナーが良い
・コンビニや自動販売機がたくさんあって便利
・「空気を読む」という文化がある
・学校で成績を公表されず、生徒の自尊心が守られる
・交通ルールがあり、皆それを守って生活している
・基本的に誰でも親切で礼儀正しい
・思いやりやチームワークを重んじる
・学校は競争の場ではなく、どんな生徒も公平に見てくれる
・時間をちゃんと守る

### 好みの色やファッション(制服)の違いなど

・制服は衣替えをする
・制服・体操服・部活の服といちいち着替える
・花柄は中国では年配者が着ることが多いが日本では若者に流行
・冬でもおしゃれのために薄着
・男子は中にTシャツを着てからシャツを着る
・日本の洋服は鮮やかな色が少ない
・ワイドパンツが流行っている

**Comment**

日本では当たり前のことも留学生にとっては珍しく感じるようで興味深いですね。思わず笑ってしまうコメントばかりでした。

### 社会事情

・電子マネーがあまり使われていない
・高校生にとってアルバイトするのは普通
・果物や野菜が高い
・中古品を売買するお店があって便利
・サービス業の人はいつも笑顔で仕事している
・ゴミの分類がとても細かい

第12期生

# 好きなものランキング

あなたの好きな日本のものについて教えてください。

## 好きな日本の芸能人

1位　新垣結衣 / 山下智久 / 広瀬すず / 福山雅治 / 二宮和也 /児島一哉　（各2票）

2位　Aimer（エメ）/嵐/新田真剣友/石黒英雄/石原さとみ/小栗旬/欅坂46/小松菜奈/堺雅人/坂口健太郎/佐藤健/高橋一生/竹内涼真/戸田恵梨香/菜々緒/橋本環奈/花澤香菜/濱田龍臣/林遣都/平井堅/福士蒼汰/ブルゾンちえみ/マーシュ彩/桝太一アナ/マツコデラックス/松本潤/水卜麻美アナ/山口百恵/山崎賢人/ゆりやんレトリィバァ/米津玄師/渡辺謙/渡辺直美　多数（各1票）

**Comment**

今年は大きく票が割れ、1位は2票が入った6人、2位は1票の33人（組）となりました。新垣結衣、山下智久は2年連続1位獲得です。並み居る人気俳優の中にお笑い芸人アンジャッシュの児島一哉が入って大健闘。既に引退している山口百恵に票が入っているのが興味深いですね。

## 好きな日本の作家、作品

1位　東野圭吾（白夜行、容疑者Xの献身、ナミヤ雑貨店の奇蹟、ラプラスの魔女）

2位　村上春樹　（1Q84、風の歌を聴け、ダンス！ダンス！ダンス！、ノルウェイの森）

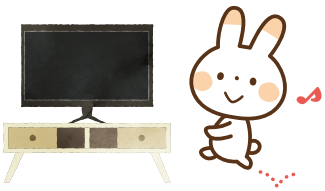
3位　太宰治（人間失格）

【その他】　こころ〈夏目漱石〉、金閣寺〈三島由紀夫〉、銀河鉄道の夜〈宮沢賢治〉、ぐりとぐら〈なかがわりえこ〉、窓際のトットちゃん〈黒柳哲子〉、雪国〈川端康成〉、ブラックペアン〈海堂尊〉、未来いそっぷ〈星新一〉、十角館の殺人〈綾辻行人〉など

**Comment**

東野圭吾は3年連続の1位獲得です。2位にはこちらも中国で人気の作家、村上春樹が入りました。現代作家の中にあって太宰治、夏目漱石や三島由紀夫などの文学作品も毎年必ず票を獲得しており、中国での根強い人気が窺えます。

## 好きな日本のテレビ番組



1位　月曜から夜更かし/ 東大王

2位　世界の果てまでイッテQ / モニタリング/ 嵐にしやがれ/ 99.9-刑事専門弁護士

3位　おっさんずラブ/ アンナチュラル/ 世界一受けたい授業/ アニメ等

【その他】　ミスデビル/ SPEC/ サスケ/ 頭脳王/ 天才志村動物園/ 西郷どん/ ニュース番組など

**Comment**

バラエティー番組への投票も多かったですが、勉強になるクイズ番組にも票が集まりました。『世界の果てまでイッテQ』はなんと5年連続のランクイン。話題のドラマもやはり人気がありますね。

## 好きな日本の食べ物

1位　ラーメン

2位　カレー

3位　うどん

【その他】　お好み焼き、オムライス、刺身、おすし、味噌汁、わらび餅、カステラ、卵焼き、てんぷら　など

**Comment**

去年に引き続き、今年もダントツ人気はラーメンでした。ラーメンと言っても各地域各店でスープの味、麺の太さや具も違うのでそれぞれの好みがあることでしょう。そして近年じわじわと人気が上がってきたカレーがとうとう2位にランクイン！うどんも毎年根強い人気です。

## 番外編　嫌いな日本の食べ物

1位　納豆

2位　刺身

3位　明太子

【その他】　わさび、梅干し、サラダ、しそ

**Comment**

今年もワースト1位は納豆となり、これで7年連続です。ネバネバと独特の臭いが苦手という声が多かったです。その他は「生もの」系が多く、刺身や寿司などは好きと嫌いの両方に分かれるようです。例年よりは、嫌いな食べ物が「ない」と答える生徒が多かったのは、中国でも日本食を食べる機会が増えているのかもしれませんね。

# 帰国を前に

親元を離れてやってきた日本での11ヶ月間は、笑いあり、涙ありの充実した日々でした。
帰国前に、12期生に日本での生活を振り返り作文を書いてもらいました。

## ―作文集―

# 一年間

とわの森三愛高等学校 / 洛陽外国語学校
路　欣平
LU Xinping

机の前に座っているわたし。

頭が真っ白になって、書きたいことといっぱいあるが、言葉で表す時は、躊躇った。どうやろう。ちょっと不安だ。

センターからもらったお知らせに「締切日厳守」を書いてあるが、実は今までやる気がない。できれば最後まで書かないと思うが、ルールを守らなければならない。なぜなら、「終わる」が感じられる。もうすぐ1年間、いや、11ヶ月の留学生活が終わるのだ。

最初は思えない長い期間と思ったが、今振り返して、意外に短いだなぁ。毎日楽しくて、充実に過ごした。去年9月とわの森三愛高校に来た時のこと、今まで覚えている。不安、緊張、迷っていた。自分のすべきことも知らなかった。来日前立った目標は実現できなそうだ。いや、そうじゃない。

とわの森は毎週学級通信を配っている。担任の先生からの話しだ。先週の振り返し、これから一週間の目標や日程、先生の考えなど。7組の担任はすごく元気で、明るい男性だ。毎回一番多い言ったのは「絶対できる」。できないと言うな！！何か困難があっても、諦めない、自分で考えて、みんな協力して、絶対行ける。その気持ちを抱いて、留学生活を始めた。

変える機会は何だった。今一番印象が深いのは、体育の授業だ。バレーボールをやった時、一緒に笑って、走って、試合に負けても大丈夫。楽しかった。クラスに入ったと感じた。頑張ったら、できる。その自信があって、続く勇気を得た。うまくいけそうだ。

もちろん、困難も悩みもある。自分で乗り越えられない時もある。最初、クラスのみんなに聞くのはちょっと恥ずかしいし、迷惑をかければ、嫌な気持ちになるかもしれない。…それは自分が思いすぎるだ。クラスのみんなが熱心し、いつも自発的にわたしを助けた。小さいことだが、そのやさしさはいつまでも自分のこころに残っている。

その間、自分もどんどんどんどん変わっている。一番必要なのは自己管理だと思う。寮の生活は自由で、宿題も少ない。暇な時間はどうしよう。それは一週間の予定を考えて決まる。テスト前、やることいっぱいある時もある。「優先事項を決めて、進んで行きましょう。」先生がそう言った。新しい環境で友達を作るも大事だ。自分から話して、会話を続けることは技術が必要だ。そして、あきらめない。チャンスがあれば、いっぱいしゃべろう。ことばで人と人の橋をかけよう。

いままで、もう成長したか。この作文を書いて、自分の成長が実感できた。去年よりもう変わった。これからもどんどん変わっていく。よし、このかんじで行こう。できる限りのことをやろう。

できないと言うな！

ぜったい、あきらめない！！

# 我が一年

立命館慶祥中学校・高等学校 / 済南外国語学校
傅　昱涵
FU Yuhan

留学の一年、まもなく御終いです。今は来たばかりの時と気持ちがほとんど同じ、興奮とともに不安が混ざっています。

一年前、僕は新しい事を経験するため、心連心を参加する事を決めました。一ヶ月後、参加できるというううれしい返事が来ました。それが全ての始まりでした。

9月8日、最初の登校日、同じ寮生のクラスメイトが僕を立命館へ連れて行ってくれました。生徒達の前で自己紹介する前に高校の先生達の前で自己紹介をしました。その後、担任の河本先生が案内してくださって、僕は初めて学生のみんなに合いました。あれは確か定期試験の一日前だったせいで、誰も僕と話す暇がありませんでした。十月上旬、野球の試合の全校応援で、僕は初めて野球の試合を見ました、そしてクラス全員の名前を覚えました。ルールを知らなかったから、試合は楽しいとは言えませんでしたが、応援の雰囲気に感動させられました。その後、普通の生活が続いていました。十二月、僕にとっては一番辛い時期、ホームシックが一番強い時期でした。誕生日の１２月９日は久しぶりに泣きました。その後も色々辛いことがありました。体も心も多分この時期で崩れてしまいました。何回も病気になりました。冬休みの間、いつも週末行っていた大麻だけでなく、士別も行きました。２メートルぐらいの積もった雪を見ました。ホストファミリーの国忠君の家に一週間泊まりました、印象が深いのは「狸のたまご」という本を書いた国忠君のおじいさんとずっと三十五歳ぐらい若く見えるお母さんです、あのときは本当に楽しかった、多分一生忘れません。もうひとりのホストファミリーの大麻の大川さんは七十代になりましたが、毎日元気そうにいろいろなイベントに参加しています。そのような生活に対する態度が素晴らしいと思います。春休みの間ずっと彼女のお世話になりました。春休み最後の一週間、先生のおかげで、平岸高校のある女の子と出会いました、その後も一緒に花見をするとか、一緒にライラック祭りへ行くとか、楽しすぎてどうやって言葉で説明したらいいのかわかりません。残念なのは立命祭に間に合わないことです、文化祭を体験できません。

このほとんど一年の間に、僕は成長しました、一人で留学する、一人で日帰り旅行する、一人でショッピングする、それは前体験したことがありません。そして、日本という国について新しい印象を持ちました。民度のレベルが高くなると共にルールは厳しくなります。

心連心プログラムは僕に留学する機会を与えてくれて心から感謝します、誠にありがとうございました。いつでも心連心の先生からの配慮を感じられます。悩みがあるときも、病気になったときも相談してくれて感謝致します。また、学校の先生とクラスメイトにも感謝したいです、この一年色々お世話になりました。性格がちょっと変な僕は迷惑を掛けて本当に申し訳ございませんでした。最初から最後まで助けてくれて感謝の気持ちが強すぎて適当な言葉を探せません。

いよいよ留学の生活が終わります、もう一度振り返って見ると、楽しい思いもあるし、悔しいこともあります。日本で生活したこの一年間はすでに一生忘れられない記憶になりました。

# 日本の高校生活

盛岡中央高等学校 / 天津外国語大学附属外国語学校
劉　謙君
LIU Qianjun

一年間の留学生活は瞬く間に終わりました。まるで夢幻のような経験は私の人生の中でもっとも忘れがたい思い出です。

去年の九月に遡ると、最初のときは緊張で期待している気持ちで日本に来ました。でも、実は常に予想どおりにいかないです。その時の私は日本に来たばかりで、文化の衝突、言語の違い、クラスの人たちと想像より親しくない、希望の生活となかなか違います。私は一時に迷い、影響悪いことをしてしまうこともありました。

でも、私は日本に来る時の初心に刺激され、最初の私にかえりました。私は交流のため、視野を広げるため、成長のために日本に来ました。この初心を忘れず、だんだん日本の生活に慣れてきました。

この一年はいろいろなことが起こりました。まずは学校生活から始めましょう。生活を充実するために私はバスケ部に入りました。だんだん練習に慣れて、部活の人たちと友達になりました。大会の時はみんなと一緒に遠征して、先輩たちの試合の時の姿とにぎやかな応援の声が私の心を震撼しました。試合の後、みんなと一緒に温泉に入ったり、話合ったりして、素晴らしい思い出でした。もっとも印象深いのは5月の高総体が終わってから、三年生の先輩たちが引退することです。その別れの場面はなかなか忘れられません。部活は私の学校生活の中で一番楽しい時間でした。

部活以外は、クラスの生活の時間です。クラスメートと弁当を食べたり、話合ったりして、仲良くなって、気軽に相談できるようになりました。学校で勉強するうちに日本の教育に詳しくなりました。成績を重視している中国に比べて、日本は考え力を重視しています。例えば、小論文や自由研究などによって、問題を発見して解決する能力が鍛えられます。それに、この学校で、人間関係や自分の進路についての考え方などもいろいろ勉強になりました。

学校以外に、私は何回かホームステイに行くチャンスをもらいました。初めてのホームステイの体験は同じクラスの友達の家です。ちょうど新年の時なので、友達の実家の大槌町に行きました。元日に神社に初詣しました。日本の文化を体験できてよかったです。大槌のイメージはちょっと荒涼でした。なぜならば、大槌は東日本大震災の被災地です。被害に遭った写真を見て、今ここで生活している人たちに本当に尊敬しています。逆境でもしりごみしない精神は素晴らしいだと思います。春の時もホームステイをやりました。5月は花見に行って、6月は東北絆祭りに行きました。岩手の美しさが見えました。ホストファミリーと交流して日本の文化も詳しく知りました。

この一年、私は日本の生活に慣れて、普通の高校生みたいに生活していました。毎日はほぼ同じ、時々この生活が退屈だと思いますが、ここで自分の居場所を見つけて、周りに溶け込んで、日本高校生の視点から学校生活を体験して、日本の文化を学ぶことは私にとって本当に宝物のような経験でした。

最後、私は学校の先生たち、生徒たち、ホストファミリーたち、心連心の先生たちに心から感謝しております。私はここで勉強したことは忘れない、中国に帰ったら、日本の大学に進学でき、また日本の土を踏めるように、もっと頑張りたいと思います。

# 平凡ではない一年

明桜高等学校 / 上海市甘泉外国語中学
張　嘉琪
ZHANG Jiaqi

高校２年生の時間というのは、私にとっては平凡ではない年です。2017年９月に、私は面接に合格しました、日本の秋田に来て、１年間の短期留学を行いました。

もうすぐ帰国が近づく中で、何度も思い出がいっぱいになって……秋田は、日本のことにあまり知らない人はわからないかも知れません。日本の東北では、米や秋田犬には有名なお土産と言われています。

秋田に着いたばかりに、初めて会った人は大友さんで、彼女は私の寄宿する家庭の保護者です。１年間で、私に多くの援助を与えました。大友さんは私にとても親切で、彼女が作ったご飯は特別に美味しいです。私の誕生日や祝日の時には、私を連れて外食して行ってくれました。年越しを祝った時に、私は大友さんの家族と一緒に餅を作ったり、神社にお参りしました。大友さんの旦那さんはとてもユーモラスな人で、私をよく連れて、周辺の都市や観光スポットに行ってもらいました。クリスマスとクリスマスイブの夜、大友さんは、多く美味しい料理を作った、大友さんの旦那さんは、サンタクロースの姿で楽器を吹いていた、あの日非常にうれしかった。

私は明桜高等中学校の１年のＪクラスで勉強していました。私は全校の唯一の中国人ですから、最初は、勉強する環境の変化には、まだ慣れていませんでした。その後、クラスメイトたちと自分の努力の下で、自分をより良く調整できるようにしました。日本の学校は中国の学校とかなり違います。勉強する科目は中国より多く、中国には存在しない科目があるので、わからないところがたくさんあるので、先生やクラスメイトたちは、とても親切に答えてくれていました。私も学校のたくさんのイベントに参加しました。運動会の時に、私たちのクラスで一緒に統一した服を作って、学生たちのために応援しました。親睦行事をしていたとき、一緒に長縄跳びの試合に参加しました。蘇州外国語学校と台湾淡水商工学校が私たちの学校に来た時に、私は通訳の仕事を担当していました。通訳中から、自分の日本語がゆっくりと良くなることを感じます。

日本に来る前に、必ず日本で３冊の小説を読むことを決めました。５冊も読んでいたが、うまくやっています。ここで多くの新しい友達を知りました。彼らは週末に一緒に遊びに出かけたり、自分の休み時間を犠牲にして、私が理解できない日本の古典文を教えてくれたりすることもあります。留学中には、交流することが大切だと思います。自分がやっているのはいい感じだと思います。

一年間近くの時間で、感謝したい人がたくさんいます。今後の人生の中で、この貴重な経験を持って、勇気を出して、夢を完成することに努力します。

# 忘れられない思い出

埼玉県立蕨高等学校 / 福州外国語学校
江　娉
JIANG Ping

この10ヶ月ぐらいの日本での留学生活、いろいろな経験ができました。埼玉県に住んでいました。蕨高校に通っていました。剣道部に入りました。４つの家族に入りました。優しい人たちと出会いました。。。。。今、そろそろ帰るところで帰りたいと帰りたくないの気持ちは両方あります。

最初の初耳の埼玉から、今の詳しいまで過程はおもしろくて楽しかったです。さらにいろいろな初めてのことを経験しました！

初めて着物を着てホストファミリーと韓ちゃんといっしょに浅草での散歩、９月の天気、暑かったですけど、かわいいのために、２人が頑張って最後まで我慢しました。初めて秋葉原のメイド喫茶に行きました。初めて花火大会に行きました。初めてのディズニー、初めての雪、初めてのスキー、初めての日本のお正月、初めての歌舞伎体験、初めての京都。。。。。

それから、はじめての剣道でした。私、剣道のルールでもわからなくてただ好奇心を持って入部しました。最初のなんでもわからない初心者から今の普通に稽古できるまで、毎日の練習で自分も成長が感じられています。朝練のとき死ぬほどしんどかったです。毎日けがも止まらないですし、疲れたときそのまま倒れたかったですし、いっぱい辛いことがありましたが、体も心も十分に鍛えられてきてうれしいです。「最後まで諦めない心を持つこと」は剣道からわかった大切な一言です。

また、初めて一人で、電車に乗りました。人は漬け物みたいに車内にパンパン入れてありましたが、周り、誰でもいなかったくらいに静かでした。電車と風の音しかなかったです。さらに、電車を降りて夜一人で、暗い帰り道を歩くとき、その時、いつも無意識にいろいろ考えてしまいます。「私はここで一人なんだ」とよく思いました。でも、家に着いてホストファミリーと会った時不安と悲しさがすぐになくなりました。私、本当にラッキーでした。ホストファミリーの人たちみんな優しくて暖かい人ばかりです。みんなに会えてよかったなと思いました。

たくさんの思い出を作った私はすこしだけでも忘れたくないです。剣道部の先生が剣道だけではなく人間関係のことも優しく教えてくれたとき、部活の友たちといっしょに稽古するとき、いっしょに部室で着替えながらワイワイするとき、教室でクラスメートと恋話を楽しんでいたとき、運動会頑張って走ったとき、蕨高校のまじめな雰囲気で勉強したとき、家でホストファミリーの弟と昼寝したとき、すべて忘れられないです。

日本で16歳から17歳になった私、できる限り挑戦しました。すべての経験は一生の貴重な財産になりました。絶対忘れられません。

# 私の世界は、どの色？

東京学芸大学附属国際中等教育学校（2017 年 9 月～ 12 月）
大口明光学園中学校・高等学校（2017 年 12 月～ 2018 年 7 月）/ 東北育才学校
韓　浜澤
HAN Binze

私にとって学校とは、単色で描かれた色味のないものであった。大学進学を目標として高校に入学してこの方、「試験の点数にならないものは無駄だ」という言葉は何度も言われてきた。その話は暴力的な響きを持って私の胸に響いた。息が詰まりそうな日々の中で、まだ見ぬ世界への憧れは膨れ上がるばかりであった。

そして出会ったのが心連心プログラムである。最初の三カ月間は東京の国際学校で、毎週のレポートや英語のディベートの準備に真剣に取り込んだ。留学生の受け入れに熱心で、私より中国文化に詳しいホストファミリーの横田家族は「生きている限り学び続ける」という名言を裏付けることに感心した。後の七カ月間は鹿児島県のカトリック系の女子校に通い、以前抱えていた偏見や勘違いを覆させられた。大都市から田舎に移住して、大きな暮らしぶりの変化も実感できた。また日本文化の真髄に触れたいため、私は短期ホストファミリーに連れられてたくさんの貴重な体験を積み重ねた。着物を着て茶道をしたり、能を鑑賞したり、お祭りや花火大会に行ったりした。学校を超えて、慣れた環境を超えて、中国を超えて、訪れた世界の一端の日本は多様な色に溢れていた。

その感動も成功も豊かさも、すべて他者との関連性の中に存在する。これまで数えきれないほどたくさんの人にもらった恩を組み合わせて、違う価値や色彩を生み出してくると気づいた。

私がまだ新しい環境に適応できていない時に、落ち込み、塞ぎ込む姿を見ていた友達は、次の瞬間「大丈夫?」や「ガンバレ!」と微笑みながら声をかけてくれた。その清々しく凛とした姿を以て、辛くても乗り越えられると私に示してくれた。日本語スピーチ大会に向けて、友達が原稿を読んでもらい、先生にイントネーションや発音を確認していただいた。一人で戦っているわけではなく、国籍を問わず肩に手を置いてくれる人が永遠の仲間だと分かった。地域の国際交流活動で中華料理を作ってあげたり、町ゼミで中国語講座を行ったりした時、私の支えとして見守ってくれた人に感謝の気持ちを表しきれなかった。また日中交流センターの先生方は心を込めて研修の課題や月例報告を用意し、全身全霊で私たちを応援してくださった。同期生たちは日本での家族のように楽しみや悲しみを分かち合い、一生忘れられない絆が作られた。「出会えた奇跡」ということを信じながら感謝の気持ちを生活に刻んだ。

この一年間に、私は家族からたくさんの愛情が注がれ、先生方に教え導かされ、友達と切磋琢磨しながら成長してきた。思えば、私は過去の生活を単色と表現し、一面からしか見てなかったのかもしれない。知り合った人、訪れたところ、そして体験したことはすべて一種の形となり、我々の人生の中に溶け込み、そして自分自身を変えてもらったのに違いないだろう。

私は世界が多くの色で彩られているように見える、そう主張できる強さを持てたのは、やはり心連心プログラムとの出会いのおかげである。

# 一年間の感想

横須賀市立横須賀総合高等学校 / 西安外国語大学附属西安外国語学校
**張　禹羲**
ZHANG Yuxi

中国から日本への飛行機を乗った時、僕は緊張しなかった。来日研修が終わった時、仲間達は笑って「またねー」って言って一人一人僕の前から離れてそんな時僕もかなしくなかった。ホストファミリーのお母さんは僕を連れて電車を乗ってその僕が知らない空がある処へ。

横総（横須賀総合高校）に来てからもう11ヶ月過ごした。初めて電車から降りたその記憶時々頭の中に浮かび上がることがある。昔の知らない先生達、知らないクラスメイト達今はもう仲が良い友達になった。その知らない教室で自己を紹介する時、僕は「どんな困難でもぶつかって見よう」の覚悟を持っていてここの生活が始まった。横総に来た前にも第11期生の雪先輩と連絡した時「横総の先生達が良すぎるのだよ」ってそう教えてくれた。今はそう考えると確かに雪さんの言った通りだろう。僕はここに来た前に一年間の日本語勉強していないので先生と話す時、尊敬語を付けるのは時々忘れることがある、だが先生達もいつも通り根気で僕と話して色んなことを教えてくれた。本当に感動した。文化祭のクラスの後ろにはクラス全員の名前が付けている。自分の名前を探す時、自分の中国語の発音の名前が見つけた、小さいことでも本当に感動した。ここで中国ではないこといっぱい体験して中国と全く違う経験をもらった。部活でも文化祭でも皆と一緒に過ごして本当に楽しかった。結局、俺はここの生活ほぼ慣れた時、もう戻る時間だな。大切な友達よ、もし、僕が中国に戻ったら絶対寂しくなるだろう。

そして　僕は彼女と出会った。フランスから来た留学生の絵理沙ちゃん、この私たちが知らぬ国で私たちだけに属する隅々でお互いに頑張って困難をぶつかって生きていた。色々なことを交流し、「僕はもしかしてフランス人と交流するために日本に来たのか」「なぜ日本に留学を決めたのか?」自分でも答えがわからない。でも日本にきてこの国の中は何が隠されているのか?この国はどうやって動いているのか?これが知りたいから日本に来た。家族と両親の傍から離れ、この国際のステージで自分自身を改めて考えるとどんな結果が出せるのか?自分の思想もその毎日繰り返している生活に縛られ、この異国の生活は僕にどのくらいのインパクトを与えたのか?それも分からない、だが、自分自身を改めて考えてさらに真実の自分を見つけた。これが「心の旅」ということだろうな。

この一年間の交流は僕に色々なことを教えた。たくさんの友達も出来て本当に楽しかった。その笑顔と青い空、僕は絶対忘れない。この一年間の生活で日中交流センターの先生達様々なことを助けてくれたのは心から感謝している。

# 愛してる！長野！

長野県長野西高等学校 / 長沙外国語学校
賈　雯
JIA Wen

去年の今日の時のことを思い出した。　私が面接は合格したかどうかを待っていた。私が合格したとき、本当に嬉しくて泣き出しそうだった。私も小さいころから日本の生活を体験してみたいと思い続けて、まさか高校の時に交換生として留学するなんて思っていなかった。

私は長野という美しい県に来た。日本の中部にある。四方を山に囲まれている。私の心の中はとても未練がある。私はもうすぐここを出て、次はいつ来るだろう。ここであったことすべてを思い出してみると、私は温かい気持ちが止まらない。

## 学校生活

学校に来て初めての頃、事務室で初めて私の担任と会った。担任は若くて、ハンサムな英語の教師だ。教科書やスケジュール表とかを私に丁寧に説明してくれた。そして、昼休みにクラスメートに会いに行った。私はクラスで自己紹介をした。

後ろの黒板の上に大きく私の名前と歓迎の言葉が書いてあって、私は本当に感動した。私達のクラスは男子生徒が少なくて、ほとんどは女の子。このように、私の日本の高校生活が始まった。

今思い出して、時間過ぎるのは本当に早くて、私はすぐに二年生になった。二年生は文理に分かれて、先生も一年の時と違う。先生方は優しいから、私の成績は少し申し訳ないと思う。期末テストとか、全体的の成績はいつも理想的ではなかった。先生は私が悲しんでいる様子を見たとき、私をいつも慰めてくれた。「成績は最も重要なことじゃなくて、毎回毎回小さく進歩すればいいと思う！」と先生が言ってくれた。きっと私はまだ努力不足で、私はもっと多くの点数を取ることができることに気づいた。

班活動は書道班を選んだ。西高では、部活を全て班活と呼ぶ。昔から変わっていない呼び方だ。一年生の時に担当してくれた書道班の先生は、転校して他の高校に行っちゃったから、離れた日にみんな泣いてしまった。その時、みんなは先生からプレゼントをもらった。また、一人ずつ手を握って、最後の言葉を伝えた。「ぶんちゃんと出会えてよかった。日本の感じはどう？困ったことがあったら、ぜひ言ってね！誰でもいいからね！あと、私のことを忘れないでね！」この言葉を聞いて、私は思わず泣いてしまった。

## ホームステイの生活

初めての家族は３ヶ月住んで、次の家族で７ヶ月ぐらい住んでいる。最初の家族は、留学生を受け入れるのは初めてで、家の娘さんは私のクラスメートだ。彼女の第２外国語はちょうど中国語で、私が彼女たちの家に来た時、彼女は中国語のスピーチコンテストに参加するつもりで、それを準備するため、一緒に頑張った。その日の講演ももちろん見に行った。本当に素晴らしかったな～。

休日の日も、実家に行ったりして、おばあちゃんとおじいちゃんと話をするとき、全然私のことを外国人扱いじゃなくて、胸が暖かい感じが溢れる。

今のホームステイの家族はちょっと特別で、この家族は５人の子供がいる。私のような一人っ子にとって、こんなに人数が多い家族と住むのは初めてだ！時間がたって、今は本当の家族のようだ。

私たちは一緒に温泉に行って、カラオケに行って、私のため盛大な誕生日会を開催して、新潟の大学に行って観光をして、BBQもやった。私たちは一緒にたくさんのことをした。私は今、荷物を片付けている時、リビングからの笑い声がはっきり聞こえる。私は、みんなと離れる時、本当に心が痛まないかな。一人一人が優しくて、私が病気になった時に私を世話してくれて、迷った時に私を指導して、一緒に笑ったり、一緒に遊んだりして、本当に、みんなが好きだよ。

私は長野が好きだ。ここの環境だけではなく、ここのやさしい人が大好きだ。ありがとうございました、困った時手を貸してくれてありがとう。一年間、本当に楽しかった！あと、私は必ずここに戻る！

私の一番大切な思いをここに記す。

# これからも夢を咲かそう

光ヶ丘女子高等学校／北京十一学校
**趙　一青**
ZHAO Yiqing

光ヶ丘女子高等学校の歌で「夢を咲かそう」というものがあり、この歌詞に「自分らしい花でいいから、みんなの温もり受け止めて、このひと時を抱きしめて、あの空に夢を咲かそう」という部分があります。これを初めて聞いた時の気持ちは、今も鮮明に思い出せます。私の留学先となった光ヶ丘は女子高のミッションスクールです。中国ではあまり体験できない生活を送る予感がしていましたから、期待もあった一方、不安もあり、実際に学校生活を送るまでドキドキしていました。しかし、光ヶ丘のみんなは「夢を咲かそう」の歌詞にあるように、優しく明るい子ばかりでした。彼女たちは私が来た当初から笑顔いっぱいでした。気さくに声をかけてくれたり、中国語で自分の名前の言い方を聞いてきたりしました。また、分からない事があった時はすぐ助けてくれました。こうしてみんなに支えてもらいながら、あっという間に私も「光ッ子」となりました。いろいろな思い出が詰まった学校生活でしたので、別れる時に、言葉が出ず、「さよなら」さえ言えなくなってしまいました。

光ヶ丘での生活は珍しい体験ができたということだけではなく、さまざまなことを学ぶ機会にも恵まれていました。光ヶ丘はミッションスクールで、聖歌とお祈りは日課であり、定期的なミサや募金活動もします。来たばかりの時は慣れてなかったですが、今では楽しめるまでになりました。信仰に関わらず、その日一日、これから起きる出来事を迎えるように心静かに祈る時間が何よりも大事だと思えるようになりました。また、大好きな音楽や国際事情や世界史の授業では、様々なことを学び、久しぶりに「もっと知りたい」という知識欲を刺激されました。私たちの目の前に広がる世界は一体どうやって成り立ってきたのか、同じ物事に対して他の人はどういう風に考えているのだろうか、考えれば考えるほどいろいろ勉強してみたい気持ちが強くなりました。

光ヶ丘で過ごした一年間で一番強く感じたのは、この世界はどれぐらい大きいのだろうかということです。これからも視野を広げて、いろいろなことに挑戦したいと思います。私が出会った人たちや、初めて触れた様々な出来事にいい意味で刺激を受けました。たとえ国籍が違っても、思いやりがあれば、きっと仲良くなれると私は信じます。光ヶ丘で学んだ通り、重要なのは異なることに対する理解と尊敬です。

この気持ちをずっと忘れず、私自身の「夢を咲かそう」と思います。

# 足跡に思い出を

桜丘高等学校 / 吉林省和龍市高級中学
**韓　芸琳**
HAN Yilin

星も目を閉じた夜、微かに光る月光が周りを照らすたび遠くで私の1年前の姿が目に入る。思い出と深い感情だけが残ったこの「道」は躊躇いから始まった。

高二の時、中国全国で行われる日本留学と言う機会が私にやってきた。昔からほかの国に留学したいと言う気持ちは持っていたが、自分のいる所から離れるのが怖くて、躊躇いを感じた。でもなかなかない機会だし、昔から日本の文化や色々なところに興味があって、こんな貴重な機会は絶対見逃したくなかった。それで私は自ら「日本留学」という選択をした。最初この話を親に言った時は反対もあったが、私のことを応援してくれて、信じてくれた。そのせいなのか、悩みでいっぱいだった私の「道」に花が咲き始めた。

揺れる車窓で見える北京での最後の風景をあとにして、東京行きの飛行機に乗った。日本に到着した後、日本で守らなければいけない基本的なルールと常識を身につけて、私たちはそれぞれの場所へ移動した。新幹線は初めて乗る私だったのでときめきだけがいっぱいだった。何時間か過ぎて到着した場所は東京とはまた違う風景だった。熱い風が頬を優しく撫でさし、眩しい太陽が照りつけた。そしてその瞬間から私のもう一つの「家」—豊橋での生活が始まったのだ。

私が通った学校は「桜丘高等学校」で、普段の生活は寮で過ごしていた。寮生活は初めてで、知らないところがたくさんあったが、寮の先輩たちと友達は優しく私に教えてくれた。人見知りをする私で、上手に話すことができなかったが、寮の皆はそんな私のことを理解してくれて、積極的に自ら話しかけてくれて心を開いてくれた。優しくしてくれるその姿に温もりと胸のところが暖かくなるのを感じた。心の中が寂しくなったり、心寒い時もあったが、その度に寮母さんと友達、先輩たちは私のことを優しくてしてくれたり、笑わせてくれたりした。悩みがあったらいつでも聞いてくれる皆がいて本当に嬉しくて有難い気持ちだった。そのおかげで私も積極的に皆に話しかけて、良い友達になれた。彼らは私にとってもう一つの「家族」になった。今更らしいけど、「家族」にありがとうと言いたい。

学校での生活は私が思ったより順調だった。もし知らないことがあったら親切に教えてくれて、わたしが言う日本語が上達していなくてもちゃんと聞いてくれた。先生たちもとても優しくて普段他国にいる自分だったが、その温もりが感じられた。彼らの存在で学校での生活がもっと楽しくなった。私も積極的に誰かがいたら自ら話しかけた。そのおかげだったのか日本語力も上がることになった。「皆のおかげだよ。」直接言えなかったが本当にありがとうと皆に言いたかった。そして、運がいいことに、私が来たときまだ学園祭と運動会が終わってなくて、日本学校の特有の行事も楽しめることができた。ずっとメディアの中で見てきたものを自分で経験できることはとても良い思い出になったと思っている。

日本での生活は私に新しい感覚を与えてくれた。心のよく合う友達と過ごす毎日は楽しいと言う言葉でも足りないぐらいだった。ただ単純な話にも笑いさざめくごく普通の日常だったが今でもそんな風景を思い出すと自然に幸せになる。ただ本の中で見ていた京都にも行ってみたりして、友達との思い出も段々と豊かになった。友情に国境はないと言った。　　近いが、別の意味で見ると結構遠い関係である中国と日本だけど、こういう関係をよくするのは私達のするべきごとだと思っている。国境という壁を乗り越え、言語という壁を乗り越えもっと互いのことを知っていく、そんな大切な経験になったと思う。

この留学は私にもっと広い世界を知らせてくれて、視野を広げてくれた。その一瞬の出会いが一生の友情になっていくと私は信じている。足跡に一輪の花びら－思い出を残し、光る夜空に輝く星一個－記憶を刻みながらまたとなく美しい夢を見る。思い出と深い感情だけが残ったこの「道」は躊躇いから始まった。

# 出会いと繋がるかけ橋

三重高等学校 / 成都外国語学校
尹　一茜
YIN Yixi

2017年9月。みんなが始業式と宿題テストでバタバタと忙しくしていた時、私は家で旅立つための支度をドキドキしながら、もう一度点検していました。新しい年度を迎える期待はみんなと同じでしたが、私の人生はこれから大きく変わっていくはずだと感じていました。

「人が来るということは、実はとてもすばらしい事だ。その人は過去、現在、そして、未来とともにやってくるからだ。一人の人生が、やってくるからだ。」私はずっと前からこの詩がとても好きです。どんな人と出会うのか。どんな経験をするのか。楽しい時が多いか、それとも寂しい時が多いのか。その時の私には見通すことができませんでした。でも、人と人の出会いには幸せが伴うのではないでしょうか。誰かと一緒に過ごした時間も、得た経験もとても大切で、宝物だと思います。

そこで、この10ヶ月を振り返ってみると、出会いで得た宝物は未熟な私にはどのような成長を与えてくれたのかをまとめてみました。

最初に習ったのは「受け入れ」ということです。外国人として全く経験したことのない環境に入って、文化と生活習慣の違いに、最初は多少違和感を覚え、緊張したり心配したりするのも当たり前でしょう。しかし、そのような私に「受け入れられた」という感覚を与えてくれたのは三重高の先生とクラスメート、そしてホストファミリーの家族でした。彼らは日本人として、中国から来た私を受け入れ、理解しようとしてくれました。感動したのはもちろん、私も彼らの文化と考え方を理解しようとすることが大事だと思うようになりました。そして、自分の世界や視野はますます広がっていき、文化交流の芽が生えてきました。

もう一つ習ったことは「与える」ということです。 思いがけず人生で初めての手術を日本で受けることになりました。手術前日から入院しました。弓道部の友達が何人もわざわざお菓子をいっぱい買って、手紙まで書いて、部活が終わった後、お見舞いに来てくれました。何十分も喋っていて、とても嬉しくて、手術前の緊張感もなくなりました。病室を出た時、友達の言葉がずっと心の中に残っていました。「やっぱりみんなでせんちゃんのお見舞いに来てよかった。せんちゃんと喋って楽しかった。手術頑張ってな」みんなは私を弓道部の一員と認め、全員揃って、私のために時間をかけて隣の市にある遠い病院まで来てくれました。その時、「バラを献じたる手に余香あり」という中国の諺をふと思い出しました。日本人は生活の中で、いつもこの言葉を心に留めているのではないでしょうか。チームのメンバーである時は、自分のことだけではなく、お互いに思いやりを持って、助け合って、チームやメンバーのために努力します。

「何かを生み出すには、とにかく受け入れるしかないのです。」という百田尚樹さんの言葉があります。この10ヶ月の留学生活から習ったことはこの言葉にまとめられています。日本の文化を受け入れ、それから、中国文化も見せてみて、他人のために何か自分ができることをして、友好のかけ橋が自然に生み出せると思います。

# 忘れられない一年間

京都府立鳥羽高等学校 / 済南外国語学校
王　子涵
WANG Zihan

「もうすぐ帰るのかー！早いよなあ！」とこの頃ずっと自分で思っている。日本での留学生活は夏休みの始まりに際して幕を閉じる。

一年間を振り返って、すごく有意義な一年間だった。楽しかったことも、大変なこともあった。様々な人と出会ったり、いろいろなことにっ立ち向かったり、今自分が経験した過去を振り返ると、やっぱり成長したと思う。この一年間でいろいろ勉強になって、私にとってとてもいいプレゼントだと言える。今も、ここでの一年間の生活が頭の中に浮かんでいる。

私が留学したところは京都である。長年の歴史が積み重なって、京都はかなり豊かな歴史遺跡を持ち、日本の伝統文化を知るにあたって不可欠なところだ。「金閣寺」「伏見稲荷大社」などのお寺や神社はここに位置している。人が多い都市だけど、京都は日本特有の雰囲気に包まれている。

私が留学した京都府立鳥羽高等学校も文化的なところである気がする。赤レンガで建てられた学校であり、百年の歴史がある。生徒たちは、普段の勉強だけではなく、積極的に進んで、部活動にも取り組んでいる。管理棟の中のガラス棚に並んでいる優勝カップもこの学校の栄誉を物語っている。グローバル科では第二外国語の授業があり、生徒たちの国際交流能力を高めている。

一番最初の、鳥羽高校２年８組の教室に入った場面を私はまだ覚えている。「言葉も通じないしどうしよう」と思って、すごく緊張した。でも８組のみんなはいつもいろいろ教えてくれたり、仲良くしてくれたりして、本当に嬉しかった。みんなのおかげで、私の日本語もだんだん上手になってきた。ありがとう。

みんなはいつも私にいろいろしてくれた。例えば、体育の時。私は体育が苦手だから、みんなはいつも説明してくれ、私はすごく感動した。毎日楽しく先生たちや友達と喋って嬉しくて、本当に毎日学校を楽しみにしていた。私はラッキーに日本で１６歳から１７歳になった。誕生日に，友達からのプレゼントをもらって、びっくりしたけど嬉しかった。みんなと一緒に鳥羽総体に参加したり、修学旅行でシンガポールへ行ったり、遠足で神戸へ行ったり、めっちゃ楽しかった。

私は、鳥羽高校の華道茶道部に入った。毎週月曜と火曜はお点前の練習をしている．５月の末に未生流笹岡お家元体験にも行った。そこでお花についてのアイデアと発想が見つかって楽しかった。今はもう自分一人でもお茶を点てられようになった。

私のホストはもう何十年間ずっと留学生を受け入れていた家族である。ホストのみんなは優しくて、日本についていろいろ教えてくれた。私はホストと一緒にボウリングへ行ったり、外食しに行ったり、観光しに行ったりした。ホストのママと一緒にお兄さんの学校の卒業式へ行ったり、おせち料理を作ったり、友チョコを作ったりした。きつかった時もあったけど、ホストはものの道理など教えてくれた、ありがとう。私のホストの家にはテレビがないから、晩ご飯のあと、家族としゃべるのをずっと楽しみにしていた。

実は、私は日本に来る前にずっと迷っていた。行くとか行かないか。でも、今ここにいてすごい幸せな一年間を経験できて、良かったと思っている。

光陰矢の如し。一年間で幸せな時、泣き出しそうな時を全部覚えている。これは、１７歳の王子涵に贈る最もいいプレゼントだ。

でも、すべての事の終は新しい事の始まりである。みんなからのお祝いをスーツケースに入れて全部持ち帰る。私は最もいい時に最もいいあなたたちに出会った。一年間いろいろお世話になって、心から感謝する。感謝の気持ちを忘れず、帰った後も頑張りたいと思う。

バイバイ日本！
君と出会えるって　叶わない夢
涙落ちても　離れたくない
出会えた奇跡　約束の日に
また会うと　覚えているよ

『君と出会えるって』一部引用

# 日本での一年間

立命館宇治中学校・高等学校 / 武漢外国語学校
劉　恩銘
LIU Enming

去年の 9 月 9 日―来日研修最終日、中国各地から来た私たちは分かれ、学校の先生に各々の生活地に連れられ、ワクワクしながら楽しみにしていた一年間の留学生活を始めた。

寮に着いた後、ハウスマスターが私を、中国語ができると思われる上海に在住経験のある同じ学年の寮生の部屋に連れて行ってくれた。ハウスマスターのおかげで、その人と仲良くすることができた。彼はその後、私をボーリングや漫画ミュージアムなどに連れて行ってくれ、週末に一緒にご飯を食べたり、散歩したりすることもあり、私にとって本当にありがたい存在になった。

私の学校には、たくさんの留学生が来た。タイやオーストラリア、韓国、ドイツからの短期留学生がいて、私と同じ学校になった趙さん以外にも、アメリカとスイスからの長期留学生もいる。異なる文化を持っている我々はここに集まり、一緒に日本語の授業を受け、イベントに参加し、一緒に遊んだりして、たくさんの思い出を作った。

私は普段寮に住んでいるが、冬休みと夏休みの間にホストファミリーに住むことになっていた。冬休みに私は京都にいるもう一人のホストファミリーに行くことになった。ホストファミリーのお父さん、お母さん、お姉さんが私を北野天満宮に連れて行き、勉強の神様にお祈りした。他にも、毎日一緒に色々なことを話した。短い間だったが、色々学ぶことができ、お世話になった。春休みには、学校の IB 生の家に行くことになった。ホストファミリーは私の出身地である武漢に住んだことがあるので、一緒に多くのことを話した。ホストブラザーとシスターと話し面白いことをシェアしながらトランプやゲームなどをしたり、映画を見たりして一週間を過ごし、本当に楽しかった。帰る前に、ホストとまた連絡し合い、会おうと約束した。

春休みが過ぎ、私は二年生になり、新しいクラスに入ることになった。一番印象に残ったイベントがあるが、それは校外学習と体育祭だ。校外学習の日に私のクラスが企画したのはバーベキューと水風船だった。バーベキューのメニューを考案したり、当日の持ち物を役割分担したりして、班のメンバーと話し合い、いいバーベキューとなった。その後の水風船で一番面白かったのは、あるクラスメートが私に水でいっぱいの巨大な水風船を渡して来たので、他のクラスメートたちに思い切り水をかけて、皆と笑いあったことだ。更に、解散する前に友達が私を持ち上げて、一緒に面白い写真を撮った。校外学習のおかげで、多くの人と親睦を深めることが出来たと思う。次に、体育祭だ。5 月に行われ、高校全体が五色の団に分かれ、私は黄団に入った。体育祭では、今まで経験したことのないたくさんの競技があったが、私は全員リレーと騎馬戦と台風の目に参加した。競技に出ない間は応援し、当日非常に暑かったこともあり、日に焼けた。今回の体育祭で黄団は優勝ではなかったが、何より同じ団の人と一緒に競技を頑張り応援したことで、一体感を持つことが出来た良い機会になった。

このように、たくさんの楽しい思い出を作ったが、中には大変で辛いこともあった。最も辛いと感じたことは、普段は話しかける人が少なく、日本人に溶け込めないで真のクラスの一員になれない私はいつも寂しい思いを感じ、色々な状況にさらされた時、いつも落ち込み逃げていた。二年生になっても色々あり、以前の辛いことも思い出したし、もしくは「五月病」のせいか、私は本当に疲れを感じ、諦めたくなってしまったこともある。しかしその後、いつもの通り、日中交流センターと学校の先生方と国内の友達からサポートをもらい、私は諦めないで残り時間をもっと頑張って過ごしたいと決めた。今振り返って見てみると、以前の自分より頑張ることが出来たと思う。

この一年間の間に、様々な人と出会い、色々なことがあった。大変で、悲しいこともあったが、いい人と出会い、楽しい思い出も作った。しかし、辛いことがあったからこそ、私はこの一年間を通して、考え方と見方が変わり、成長できた。日本の高校での一年間は私にとって人生において、非常に大切な経験になったと言える。

# 変化と不変

立命館宇治中学校・高等学校 / 天津外国語大学附属外国語学校
趙　楚軒
ZHAO Chuxuan

一年間の留学、人はどれぐらい変わるだろうか。自分の答えは、「生まれ変わるほど変わったけれど、何も変わらなかった。」

あっという間の一年間だった。2017年9月、なにも知らぬ私たちの姿は、今でもはっきり思い出すことができる。不安と期待、楽しみと寂しさ、いろんな感情が混ざりあっていた。そんな目に見えないけれど、ちょっと重たいものに包まれて、日本の高校生活を少しずつ体験し、馴染み始めた。

はやくも、不思議な気持ちを抱いた―「団結」「多彩」「個性」。ここは団結するところだった。文化祭も、体育祭も、校外学習でもなんでも、みんなで一緒に準備して参加する。決して誰かを置き去ることはない。ここは多彩なところだった。勉強以外、時には映画鑑賞したり、講座を聞いたりした。科目は中国より、いわゆる「副科」がとても多い。体育の授業は難しいけれどおもしろい。全面的に勉強になった。さらに、ここは個性的なところだった。いろんな部活があるので、その中で、必ず一番好きなことが見つけられる。例えば、勉強がそれほど得意ではない人、それほど好きではない人でも、部活で自分の生きがいを作ることができると思う。勉強は大事だが、唯一の生きがいではないということを学んだ。こういうところで、「一年間過ごす!」と決意した。

「進めば学び、学べば変わる」。

みんなが話しかけてくれて、たくさん話したおかげで、教科書で学んだ標準語は、より日本人らしく、そして関西弁に染められていった。みんなが応援してくれたおかげで、勉強ばかりやっていた私は、柔道も持久走も、体育の授業についていくことができた。今の自分は前よりだいぶ体力がついたと思う。運動の楽しさも見つけられるようになった。

そして生の日本文化を体験するために、剣道部に入った。そこでもう一つ、考えが変わったことがあった。いつも曖昧と言われている日本人だけどその中には、実直でひたむきな一面もあった。剣道部で、「できない」「無理」という言葉は禁止だった。代わりに、「やればできる」「自分を信じればできる」と言う。おかげで言い訳をせず、思いっきりやることを覚えた。失敗しても平気、なぜなら、全力でがんばったから。失敗の恥ずかしさを恐れない、なぜなら、恥ずかしくてチャレンジしないほうがもっと恥ずかしいから。

「『無理』と言わない」というのは、私が得た一番の、忘れられない宝物。どんなときでも、焦らずに。どんなことにも、畏れずに。この精神で、理想とする自分に、少しずつ近づいていく。正しく、美しく生きて行く。

ここで「これぐらい変わったのに、何が変わらなかったんや?」と私に聞こう。それは、「日中友好のために努力したい」「自分を強くしたい」「もっといろんな人に中国と日本のいいところ気づいてもらいたい」という心だ。すべてが変わったとしても、全部この心を基礎としての変化だ。本物の自分、私は、私のまま。いつまでも、変わらなかった。

留学して体験した変化のおかげで、もっといい自分になった。自分の心にもっと近づくことができた。そして、生まれ変わりながら、何も変わらなかった。私の根幹は、より大きな器をもつ私という器になった。

感謝、そして感謝。ここでの一年間は良かった。みんなに出会えて本当に良かった。

# 貴重な絆

大阪府立三島高等学校 / 上海市甘泉外国語中学
施　奕璘
SHI Yilin

爽やかな海風が吹き渡って来て、さざ波がひたひたと浜辺を洗い、何羽かの鳥が空を飛び立ちました。時は静かに流れています。だんだん強くなっていく海風に逆らって、5階建ての宮古島の海が一番きれいに見える展望台に登り、海に向かって大声でお互いの名前を呼びながら、海の風での前髪の乱れを手で止めました。これが青春です。

12月は多分私の11ヵ月の留学生活の間で一番カラフルな1ヵ月でした。クラスメートとは馴染んできて、また何人かの仲良しの友達もできました。日常生活でのおしゃべりもう妨げがなくなり、その上心理的にも変化がありました。はじめのぎこちなく、遠慮した不自然さがなくなり、友達とは大声であだ名を呼んだり、自分の方から「週末は一緒にどっか行く?」と聞いたりすることができました。ですが、もっと印象深いのは、その1か月は猫の手も借りたいぐらいの忙しさでした。

12月になったばかりの頃に日本語能力試験があり、続いてすぐに期末試験もありました。試験勉強で苦しんでいたときには、ホストファミリーのお母さんがいつも励ましてくれたシーンがとても忘れがたいです。テストで疲れて、また帰ってから次のテスト科目復習するときに、もらった温かいミルクとか元気になる紅茶とかに、癒やしてもらえました。

期末試験が終わる頃に、修学旅行とホストファミリーがかわるという話もありました。厳冬の大阪から出発し、飛行機で那覇空港まで行き、そこで乗り換えて、温かい、海と青空が存分に楽しめる宮古島にようやく着きました。そこでは、全体レクリエーション、バーベキュー、民泊などいろいろな体験ができました。また人生初のシュノーケリングをやりました。分厚い専用服を着て、口呼吸して、みんなと一緒に泳ぎながら水面下の色鮮やかな熱帯魚を見ました。また民泊のおじいちゃんは私達を連れて、人の少ない海辺に行きました。そこで友達と、絶景を見ました。まるで、大きな大きな天地の中で、私達だけが実存し、ストップモーションになったような感じでした。展望台で、牛舎で、お花がいっぱい咲いてる平原で、サトウキビ畑で、私達の走ったあしあとと笑い声が残りました。

帰りの飛行機に乗ったときは、すごく気が重くなりました。宮古島とお別れして、大阪に帰ってからも最初にあずかってくれたホストファミリーとお別れするのです。大阪についたときにはもうよる9時すぎてました。またその夜大阪は珍しく大雪でした。でも、それにしでも迎えに来てくれたお母さんの笑顔が雪に照り映えして、私はすごくあたたかく感じました。

12月は、この11ヵ月の間では一番カラフルの時期でしたが、他にもいろいろありました。この11ヵ月に私は国境を超えた友情とホストファミリーとの絆ができました。いろいろな人から心をよせてもらいました。16歳の私にはきっと想像できないです。この一年間でたくさん楽しい思い出ができ、たくさんのことにチャレンジして、日々の生活から積み上げたのは、もっと勇ましくいろいろなことに向き合えるようになった心です。

# 挑戦と成長に満ちる一年

清風南海中学校・高等学校 / 広州外国語学校
羅　清麟
LUO Qinglin

光陰矢の如く、時の流れがあまりにも早く、日本についた去年の9月が昨日のように思っていたら、あっという間にもう7月になった。感想文を書いている時、窓から眺めた風景は既に真夏になり、光が眩しいほど輝いており、グラウンドで汗をかいてハードル走を練習している生徒たちは元気な声を響きわたせている。去年9月に来た時もこのように暑かった。この11か月間を振り返ると、まさにハードル走のようにハードルを一つずつ飛び越えながら走ってきた感じで、精一杯で速く走っていく爽快さとハードルを乗り越えるときの辛さを交えながら笑ったり泣いたりしてきた。この充実な過程は、一生忘れない貴重な経験になる。

## 言語のハードル

大阪に到着したばかりの時、未熟な僕は興奮でドキドキしながら、はじめての留学生活が始まった。最初は、優しい吉田家族に温かくて歓迎され、緊張していた心は落ち着いた。もっと意外なのは初めての会話にすぐ共通話題を見つけた。父子もガンダムファンだった。僕は中国語バージョンしか見なかったが、自分の好きな機体の特徴を手足振りながら日本語で説明してみたら：「角がある、赤い、速いやつ」、「あれかな、シャー専用ザクだよね」「そうそう、あれなんだ」。僕の不器用な言語力で、意外的に会話を進めた。吉田ファミリーは非常に優しくて、僕の言葉の誤りを訂正したり、学校の行事を紹介したりして、慣れない国で慣れない暮らしと思っていたが、この見知らぬ土地での生活は吉田家のおかげで言語のハードルを無事乗り越えた。

## 学習のハードル

中国の先生依頼型の受身勉強とは全然違い、日本の学校は完備な勉学環境を提供しており、その学習資源を最大限に活用し、自ら主体的に学び、興味を持つ分野で創造的な役割を果たす学生を育つことを目的としている。学生の高い学力を求めるが、宿題の量は中国と比べると考えられないほど少なく、毎日ただ二時間で終わらせた。そのかわりに、学生の自主自律学習が求められ、公式や定理が得られた過程で、どのような考え方がなされたかをよく理解し、それらの本質が何かを見抜くことが最も大切されている。本質に迫るためには大量な練習が必要で、その自主練習時間を確保するために先生が指定する宿題量を収めている。

最初は自主練習が必要であることすら知らず、初めてテストを受けた時、僕は呆然で問題用紙を見つめ、いつかにやった演習問題なのに、今再び遭う時に解決策を全然覚え出せない。テストが大失敗で悔しかった。真剣に反省してみたら、これはハードル走と同じで、足を振り上げハードルを跨ぐ方法を身に着けたとしても、無数回の練習を繰り返さないとリズムよく早く走ることができず、つまずいて倒れることになる。

素早く対応策を講じ、予習に踏まえて、授業が段々わかりやすくなり、宿題を終わった後に参考書を利用して復習に加え、一週間六日の授業以外にまた日曜日にも塾へ行き、更には試験前にチャート式を2回も繰り返す。努力した結果、期末試験にやっと皆を追いつけた。

## 自立のハードル

１２月の頃、ホームステイの変更通知が届きました。やさしい吉田ファミリーと別れ、新ホームステイ藤本家に移った。とても優しい夫婦であり、「在留変更手続きを自分でやってみたら」と励ましていただき、自ら区役所や郵便局へ行き、日本語がうまいといえないが、スムーズに変更手続きを一人で完了させた。通学路線も自分で計画し、新たな生活をスタートした。

## 佳境に入る

期末テスト、冬休み、中間研修、始業式…環境に慣れた後、時間の流れはいきなり加速した。学校では仲間ができて、授業を粗方理解できるようになり、放課後の時間も有効に利用できた。もはや留学していることを感じなく、日本高校生の普通な一員として生きているような錯覚が出た。

あっという間に、このハードル走の終点がそろそろ迎える。さらば、大阪、さらば、清風南海。また、次のハードル走にチャレンジするために精一杯で頑張る。再会の時、ぜひ成長した僕を見せる！

# 私はその中の一員だ

和歌山県立橋本高等学校 / 太原市外国語学校
陳　天行
CHEN Tianxing

先輩が目に涙をためて、最後のシュートを打ちました。ボールがゴールに当たって、横に飛んでいきました。ついに、カウントダウンの時計が0になってしまい、得点がとまって、うちのチームが7点差で負けてしまいした。留学生のため、インターハイの出場資格を満足しておらず、そのためベンチに入れなくて、会場の二階で応援せざるを得ない私がその全てを見て、思わず感動で拍手しました。これが先輩たちの最後の試合になってしまいました。点差を二度も20点広げられても、二度とも10点差以内に縮めました。厳しい状況でも、みんな精一杯最後の一秒まで戦いました。自分はできる限り大声で応援したけれど、ぜんぜん力になりませんでした。この気持ちは、悔しいというより、チームに何も貢献できなかったという悲しみというのがふさわしいと思います。このチームの一員として、自然にこんな感情が湧いてきました。

バスケ部に入った頃は、自分がバスケットボールについてほとんど何も分からなかったが、クラブのみんなが自分のミスを許してくれたりもしたし、いろいろ教えてくれたりもしました。チーム16人で毎日三時間も練習していて、この9か月間一緒に汗をかいて、コートを走ったり、ゲームをやったりしてきました。それ以外、練習試合もいっぱいやってきました。一緒に田辺の浜辺でストレッチをしたり、天理の宿泊所で練習試合後にクリスマスイブを祝ったり、郡山のお城まつりを歩いたりして、橋本以外の町にも私たちの足跡を残しました。

ベンチからの声が勝負しているメンバーを支え、みんなでいつも希望に燃えて、めげずにがんばってきました。自分が相手の選手が「22番（自分の番号）につく!」などのような言葉を聞くのが大好きで、チームの一員として戦う実感が湧くからです。

バスケ部の一員として戦うと同時に、二年F組のみんなとも一緒にいろいろ努力してきました。先生の話をゆっくり説明してくれたり、バレーボールのやり方を詳しく教えてくれたりして、困った時はきっと誰かが助けてくれます。京都への遠足時、私のため、班員たちがわざわざ遠回りして、何度も大雨の中バス停まで走った末に、一日で自分の見たい金閣寺が見られるようになりました。終わったばかりのバレーボール大会では、半分の班員が公欠したにもかかわらず，何とか6人揃いました。自分が何回もミスしてしまったが、みんなずっと励ましてくれました。二試合とも負けたけれど、みんなが協力して本当にいいプレーをやりました。

去年この家に来てから、もう9か月のホームスティーとなりました。ホストファミリーのお母さんとお父さんが誕生日を祝ってくれて、わからない言葉を教えてくれて、いろいろなところへ旅行にも連れてくれました。何百回同じ食卓でご飯を食べたり、しゃべったりして、自分もこの家族の一員になったと感じました。お父さんと温泉で海の夕日を見ることなども、お母さんが作ってくれた弁当を食べることなども、3人で灯台で太平洋を望むことなども、すべてここならではの体験で、この一生で大切にしたい思い出です。

その時バスケの試合が負けたのに、なんで自分が拍手したでしょう。先輩への感心もあれば、みんなへの感謝もあると思います。ここまでこの素晴らしいチームの一員とさせてくれたことに感謝します。バスケ部の一員になってよかったです。2年F組の一員になってよかったです。この家の一員になってよかったです。

最後に、みなさんに一言いわせてください。みなさんの中の一員とさせていただいて、ありがとうございました!

# 自分にとってひかりみたいなプロセス

広島市立舟入高等学校 / 福州外国語学校
劉　雯珊
LIU Wenshan

私は去年の9月から、今年の7月まで、１年間ぐらい広島で留学しました。
私が住んだ広島は、平和でいい都市です。いままで一年間ぐらい過ごして、色々思い出をつくりました。広島で有名なのは平和公園と言う、旅行や修学旅行などで見に行く人が多いところです。平和公園には、原爆ドームの名で知られる広島平和記念碑で、日本の広島市に投下された原子爆弾の惨禍を今に伝える記念碑があります。

それと、人と神々が共に生きる島という宮島は、広島湾に浮かぶ小さな島で、森林や古い神社仏閣で知られています。９月の時、はじめのホームステイのお母さんとクラスメートのれなちゃんと一緒に宮島へ行きました。世界遺産嚴島神社の玄関口で、12 世期頃に最初に建立されたそうです。 その日に広島の有名なお菓子・もみじ饅頭を食べました、おいしかったです。三度目のホームステイは佐賀県に行き、そこで冬休みを過ごしました。ホームステイをした家はお寺でしたので、12月31日は灯籠を作って、墓石に一つ一つ置きました。そして夜に点火して、美しかったです。素晴らしい正月でした。

私はこの1年間、ホームステイを五回変わって過ごしました。大変でしたが、ホストファミリーは私の日常生活を全面的にサポートしてくれる日本の家族なので、とてもありがたいと思っています。それに、実は自分自身の原因もありますが、今は私がやっているのはまだ足りないと思っています。もっと頑張って、真面目にやらなければならないと思います。

自分の生活中で、困ったことがあっても、親や友達あるいは先生に聞いてもらうこともできますが、留学中は、最初はまず自分に頼ったほうがいいと思います。他人に教えてもらってはいけないと言うわけではなく、自分ができることをやるようにして、それでも困ったときに、また他人に助けてもらっています。でも、留学の間は、他人との会話について言えば、まずはコミュニケーション能力と母語の違いであることが問題だと思います。

言葉の違いや、よく知らない環境では思わずしりごみをしてしまうのは、一般的なことです。留学はこの問題を改善するためであることだと思います。私は一人の留学生であり、経験も不足しているため、日本人を相手にした時に色々な問題が起きることはよくあることだと思います。このような場合は勇気を奮い起こし、大胆に発言したり、常に積極的に話題を探して話しかけたりすれば、人は自分に答えてくれることもあり、同時に彼らの心の中での自分の印象も上昇します。

留学中、私は経験を豊かにすることで、視野も広くなりました。母国と違う国、よく知らない都市で、家族と離れて生活し、自主的に考え、行動できるようになりました。多くの人に支えられて、生きていることを知り、感謝の気持ちを持つようになりました。

まだ高校生の私は日本に留学して、日本の高校生と交流することは珍しくて、素晴らしいことだと思います。これは私にとって、一生に一回だけの貴重な体験と思います。
今まで日本のみなさんにいろいろお世話になりました、心より感謝します。

私は留学で、最も重要なのは結果ではなく、プロセスであると思っています。それは自分の人生でひかりになれるものだと思います。これからももっと努力して、これからの日々も進んで行き、頑張りたいです。

# 認識

龍谷高等学校 / 吉林省和龍市高級中学
禹　林強
YU Linqiang

2017年9月5日。私は一人で中国からの旅をした。小学校6年生の時、初めて日本のアニメと出会ってから私は日本という国にすごく興味を持つようになった。「春になったらピンク一色で覆われる道、部活動で汗を流しながら頑張っている学生たち」こんな日本の光景は当時の私の心には衝撃的だった。

登校初日。まだ制服をもらっていなかった私は、自分のスーツを着て龍谷生皆の前で自己紹介をすることになった。800人を超す人の前での自己紹介は緊張して手が震えたが、その中で私は自己紹介を始めた。「皆さんこんにちは。禹林強と申します。明日から1年A組のクラスで授業を受けるようになりました。どうぞよろしくお願いいたします。」静かだった体育館いっぱいに私の声が響いた。

このときに私は、心の中のピストルがなり、日本での留学生活がスタートした。その翌日、同じコースではあるが隣のクラスの仲間と教室に入った。何もわからないまま次々と教室に入ってくるクラスメートに「おはよう」と挨拶をするだけだった。朝のホームルームの時間にもう一度クラスメートの前で自己紹介をした。最所の頃は皆が私に対して興味を持ち、いろいろと質問された。時間がたつに連れて質問も減り、自分のペースで生活することができるようになった。次第に馴染んできたクラスメートともすごく仲良くなれて最終的に日本での高校生活を楽しむことが出来たことに感謝している。高校生活に少し慣れ、私はバレーボール部に入部した。バレー部には部員11人と2名のマネージャーがいる。強い部活動ではないけれど部活動は楽しく、笑いが絶えなかった。自称動物カメラマンのネオ先輩、ゴリラと呼ばれる同級生のコウキ、人真似をするのが得意なヨシナオ、皆のおかげできつい部活動も笑いながら続けることが出来たと思う。

私のホストファミリーはおじいちゃんとおばあちゃんの二人家族だ。七十代の後半になるおばあちゃんは若い人に負けない根性と人を驚かせるパワーを持っていてとても七十代には見えない。短期大学で何十年も教授生活を続けたおじいちゃんは、自分が研究した話や昔の話をしてくれる。寮生活を5年経験し、小さい頃におじいちゃんおばあちゃんを失った私にとってこんな家族と生活をすることが夢のようだった。今更ながらだが、ホストファミリーが原岡家で本当に良かったと思っている。

私は日本に来てから自分一人では何も出来ない無力さを学んだ。校長先生がいつかこんな話をしてくれた。「この世の中には自分一人でできることはなにもない。例えばコンビニエンスストアで卵を買うとします。でもその店まで卵を運んでくれる人、卵を生む鶏を飼育する人たちがいないと、私たちは卵を買うことができません。」この言葉を聞くまでの私だったら意味が理解できなかったかもしれない。おそらく理解できなかったことだろう。しかし、今の私には話の裏にある真意を理解することができるようになった。無能が悪いわけではない。無能と知りながら頑張らないことが悪いのである。だからいま私は無能ということを自覚し、頑張っていこうと思っている。

私が日本で学べたのは、おそらく文化など一部分だけだと思う。でもその一部分ですら私を大きく成長させてくれた。多くの出会いに感謝したい。

# 成長と記憶

長崎県立壱岐高等学校 / 河北唐山外国語学校
梁　天楽
LIANG Tianle

あと1ヶ月で私の日本での留学生活も終わります。本当に楽しくて、有意義な一年でした。この1年間、私はいろいろなことを体験し、いろいろな場所に行きました。壱岐の島でのこの1年は、生涯わすれることのない1年になると思います。

去年の夏、私はアニメと漫画でよく見ていた日本の本当の姿を知りたくて、まだ日本語を全然話せなかったものの、この留学に参加しました。そのときの、緊張と楽しみが入り交じった気持ちは、いまだに覚えています。

長崎県壱岐市に来て最初に思ったことは、やはり「本当に綺麗な島だ」ということでした。その後、里親のお父さんとお母さんに会いに行って、里親さんの優しさで私の緊張感も解きほぐされました。学校に来て、先生や周りの同級生と先輩たちにも親切に接していただきました。最初はバスケットボール部に入って、部活動で毎日疲れていましたが、部活動で汗を流すのはとても楽しかったです。しかし時間が経つにつれて、文化の違いからか、日常生活に慣れないところが増えてきて、周りの人たちが最初のように優しく助けてくださることも少なくなって、初めて留学の大変さを実感しました。「もういい。中国に帰ろう。もうこんな生活耐えきれない。」と思って落ち込んでいましたが、学校の先生方や日本のお父さん、お母さんから「あきらめないで頑張って!」と応援の言葉を多くかけてくださいました。自分の中でも「半年足らずで帰国するなんて根性がないのではないか」と奮起し、立ち直ることができました。それからは勇気を出して積極的に外に遊びに行って、日本語の勉強に励み、しばらく経ったら、自分がここの生活に溶け込んだだけでなく、大きく成長していたことに気づきました。規則正しい生活や日常の様々なことはもちろんのこと、もっとも成長したのは困難に立ち向かう姿勢が身についたことでした。

中間研修になって、再び全国各地から来た留学生の仲間たちと会ったことで、みんながそれぞれ大きく成長していることがわかりました。この30人との友情は、壱岐の島での出会いとはまた少し違った大切なものです。人の人生は線路を走る無数の電車だと思います。この1年間、みんなと並行して走ることができて本当に嬉しかったです。

壱岐の島に戻って、高校2年生になり、今の東アジア歴史・中国語コースのクラスに入りました。このクラスでは自然にみんなと中国人の友達のように仲良くなって、一緒に遊んだり勉強したり、カラオケにも行きました。先生たちも私のことに気を遣ってくださって、特に副担任の丸木先生は優しく接してくださって本当に嬉しかったです。丸木先生の優しさを言うと、丸木先生の冗談を言っても怒らずに笑ってくれることや、日本語を教えてくださって、私のためにわざわざみんなとは違う国語のテストを作っていただきました。本当にいろいろお世話になりました。

仲の良い友達と優しい先生方がそばにいて、毎日里親のお母さんに作っていただいているおいしいお弁当も食べられて、今は元気に楽しい生活を送っています。病気になって里親さんに病院まで連れて行っていただいたこと、元気がなかった時に、先生に遊びに連れて行っていただいたこと、壱岐の島の綺麗な風景を見たことなど多くの感動もあって、あきらめずに頑張ってよかったと今は心からそう思っています。

いよいよお別れのときが訪れます。長山旅館での1年間は、本当に楽しかったです。異国でたくさん友達を作って、優しい人たちに出会って、中日文化の違いと、両国の人々の性格と生活習慣の違いを身をもって体験できました。そして自分の視野を広め、人生経験を増やすことの出来たこの1年間から、私は将来再び日本に留学したいと思っています。中日友好関係に、ささやかながら自分の力を尽くしたいと思っているから。

# 日本での一年間

岩田中学校・高等学校 / 南京外国語学校
**馬　文治**
MA Wenzhi

土手の下に、大分川は片時も止まらずに静かに流れています。時間もこのようにひっそりと過ぎています。いつの間にか、一年間の留学生活はもう過去になりました。ですが、この一年間での出来事は、きっと忘れられません。

## 愛と感動の岩田

岩田に来たとき、ちょうど学園祭の前でした。新しいクラスでの不安と心配はみんなと協力してクラス展示を準備しているうちにすっかり消えました。賑やかな学園祭を楽しみ、四組と岩田のことが好きになりました。強歩大会も岩田生全員と一生懸命走り抜きました。12ｋｍの道程を走った経験が全くなくとても辛く、友人に励まされて、１時間２８分で全コースを完走しました。立てないほど疲れましたが、「やっと終わったなあ」という嬉しさで、体中汗だらけの友達と見つめ合い、どっと笑いが出ました。また、心を打たれたこともあります。１１月頃、英語の先生であるパーカー先生の子供が生まれたそうで、みんなは黒板にきれいに「Congratulation」と書いたり、祝辞を書いたりして、先生が終礼をしに来たとき拍手しました。パーカー先生は思いがけない出来事に大変感動されました。私もこの温かい出来事を通じて、クラスメートの思いやりと親切心を感じました。

## 意志を試練する剣道

日本に来る前に、きっと剣道部に入ろうと決めていました。「ワンピース」のキャラクター「ゾロ」の姿がかっこいいと思い、これをきっかけとして「剣道」という日本の伝統的な武道を知りました。許君と入部して、初めて竹刀を持ち、二人とも興奮しました。しかし、剣道においては力が弱い左腕で竹刀を振るうので、柄は手を磨いて、持つだけでも痛かったです。それに、防具をつけたあと移動のテクニックの練習が始まり、足裏が何度も破れました。時折もう無理だと思ったのですが、阿部先生が「自分に勝つことが大切」と教えてくださいました。剣道部の後輩たちも毎日諦めずに稽古しており、私が怠けている様子は恥ずかしかったです。「限界からのもう一歩を！」という言葉に励まされて、今まで剣道をやり続けてきました。「身と心の道」がまだ理解できていませんが、少しずつ精神を鍛えていました。

## 素晴らしい樟英寮

ずっとホストファミリーでの生活を楽しみにしていましたが、寮を手配していただきました。今から考えると、寮の生活が全く残念ではないと思います。入寮の夜、部屋を片付けたとたん、同級生の寮生たちが私の部屋を訪れました。私は彼らの話を聞き取れず、話すこともできず、気まずい沈黙が続いたらどうしようと心配しましたが、意外に打ち解けて話し始め、あっという間に関係が近づきました。クリスマスパーティーでは、全員いっしょに踊ったり歌ったり、心ゆくまでお鍋を楽しんだりして、みんなの楽しげな笑い声が今でも聞こえるかのようです。「寮は嫌だ」「寮はつまらないな」と思ったこともありましたが、もうすぐ別れると気づき、樟英寮での生活は、なんと素晴らしかったことかと思うようになりました。

一年間の思い出は、1000字では全くまとめられません。休みの日に受け入れてくださったホストファミリーの方々、APUプレゼンでグループと最優秀賞を取ったこと、体育大会の時情熱満々で声を出したこと…振り返ったら、書きたいことはまだまだたくさんあります。惜しいですが、中国語には「終わらない宴席がない」ということわざがあり、さようならと言わなければなりませんね。この間にお世話になった方々、どうもありがとうございました！ぜひ、またお会いしましょう！

# 日本で過ごした一年間

岩田中学校・高等学校 / 河北唐山外国語学校
許　明皓
XU Minghao

最初面接の時から今帰国するところまで、あっという間に過ごしたね。今こう振り返って見れば、「光陰矢の如し」という言葉しか思えない。

去年の９月９日、私は大分に来た。最初来る途中窓から外の風景を見たら「やべっ、俺田舎に来たんだよこれ.....」と思った。でも実際はそうではなかった、大分市は山々の中心にある、すごく綺麗な都市なんだ。そして私は何度も大分市をぐるぐる回った。

最初寮に着いて、寮母さんと当時寮の当番の担任先生と合った。寮母さんはとても優しくて「日本語できるの？すごい～上手ですね～」といろいろ私に言った。本当に心から暖かく感じた。その後、私たちを迎えに来た寮生の先輩二人が来た。私たちの部屋に連れて行って、部屋をセッティングしてくれて、一緒にお風呂に入った。その日私はとても幸せで寝た。でも翌日私は起きて、何をするかわからなかった。なんかこう、そばに誰もいない、自分の周りに知らない人だらけで、すぐ寂しく感じた。「これからの一年間はやばいかもなあ.....」と思った。けど、そんな心配は全然要らなかった。初登校の日に私はクラスのみんなに大歓迎された。そしてたくさんの仲間もできた。私は絶対に一人なんかじゃない、共に助け合いのみんながいたから私はここに立っているんだ。

この一年間で、私はいろいろなことを体験できた。初めての学園祭、クラスのみんなと一緒に助け合って、クラス展示の準備をした。あれは随分楽しかった。天井にガムテープを貼る時私はすごく役に立った。（笑）みんなにも「やっぱ背が高いってええよなあ、俺達も許君と同じぐらいまでに伸びてぇなあ」と言われた。（笑）

部活は剣道部を選んだ。正直に言うと、剣道を選んでマジでよかった、自分を強くしただけではなく、心も強くなったと思う。最初はとても辛かった、先生に動きがよくできないで叱られたとか、足に傷が出たとか、そんなのはありふれたことだ。なぜこう傷だらけでも必死で今まで頑張ってきたのか、私にもよく分からない。どうしてもいうなら、私のど根性かもしれない。（笑）毎日頑張って剣を振りまわして、終了する時に先生に「あざした！」を言う雰囲気が大好きだ。剣道部担当の阿部先生はこう言った、「剣道はの、自分も相手も、そのやる気が大事なんや、だからお前らは、剣道が好きっちゅったらの、必ず気持ちを込めて、そうするこそ一本一本取れるんや。メーーン！といい、コテーー！といい、その気持ちを込まんとダメなんや。お前らは中国に帰っても、この一点をわすれないでほしい。」この言葉は今、いやこれからも、心に刻んで、絶対に忘れはしない！

この一年間、本当に毎日毎日充実して過ごしてきた、日本に来られて、大分に来られて。本当に最高の幸せだった。もうそろそろ別れの時が来た、一年間お世話になって、本当に、本当にありがとうございました！

# たからばこ

熊本県立宇土中学校・高等学校 / 長春日章学園高中
張　添淇
ZHANG Tianqi

その日、未来への憧れと希望を持って、29 人の生徒と一緒にこの国に来ました。留学前、学校の修学旅行で日本に来たことはありましたが、その時は、東京の有名な大学を見学したり、多くの子供が憧れるディズニーランドに行きました。しかし、日本の文化については深く理解することはできませんでした。

9月に東京に来たとき、これからの1年間の生活になれるために、直ぐに勉強を始める必要がありました。私もいつもより真剣に勉強しなければなりませんでした。初期研修を通じて、日本の生活スタイルなどについて理解することができました。研修後は本格的に熊本で11ヶ月の生活が始まりました。

中国で日本語を一年間、勉強していましたが、初めて熊本に着いた時は、あまり流暢に話すことができませんでしたが、先生やクラスメイトの前で、日本語で自己紹介をしました。自分が間違った日本語を言うのが怖くて、本当は心のなかは不安でしたが、先生もクラスメイトも親切で、安心しました。最初の2か月は、南熊本にいるホストファミリーにお世話になりました。毎日早く起きて、1時間近く、電車に乗って学校に通うのは大変でしたが、自立心を鍛えてくれて、私の次の家庭での生活にも大きな助けを与えてくれました。言葉の問題で、最初は先生と話すことがとても難しくて、クラスメイトたちも私に英語で話しかけてきてくれました。しかし、日本に来た目的は日本語を習得し、日本の生活を学ぶことだったので、日本語を一生懸命に勉強しました。だんだん日本語が上達してきました。

11月にから、宇土高校の和太鼓部に入りました。和太鼓を始めたときはとても難しかったですが、毎日の練習は生活の一部になるほど楽しかったです。 和太鼓を初めて一ヶ月後に、みんなと一緒初めての公演に出演しました。その後、いろいろな公演に5回参加しました。舞台に立っている瞬間は緊張して、手の中に汗をかいていました。普段の練習では、部活のメンバーは私を助けてくれました。何度も教えてくれた和太鼓のテクニックには、とても感動しました。毎回の公演は、深く印象に残っています。宇土の大太鼓祭や、公演のコンペティション、松橋市であった雨の中でのイベント、先輩方の引退記念公演など、いつも全力を尽くしてきました。頑張った後の達成感は本当に気もちよかったです。太鼓への情熱は日本に来て大きく増しました。大学でも太鼓のサークルに入るかもしれないと思いました。

この11ヶ月の間に、3つのホストファミリーを経験しました。家族と一緒に仲良くできました。初めての家に中国語のできるホストブラザーがいて、とても大きな助けになりました。2軒目と3軒目の家庭は、本当に家族のようで、毎日学校面白さを分かち合ったり、一緒に遊びに出かけたりしました。それらはとても楽しくて、離れてしまうのがとても惜しいです。

時間がとても速くて、瞬く間に11ヶ月が過ぎ去ってしまいました。この期間は本当にとても充実していて、意味があり、中国にいる時よりも成長できたと思います。たくさんのことをして、自立できました。異なる文化を感じながら、異国の地で友達ができました。日本でのさまざまなシーンが目の前に浮かんで、どれらも忘れられないほど楽しかったです。

# “帰りたい”から“帰りたくない”に

日章学園高等学校／東北育才外国語学校
申　雪晴
SHEN Xueqing

私は去年の9月に日章学園に来ました。中国にいるときに知り合いから宮崎県は日本の南の田舎だと聞いていました。私は田舎に住んだことがなかったので、宮崎に来ることはあまり気が進みませんでした。宮崎に着いたのは夜8時半ぐらいで、外は暗かったです。寮へ向かう時の車内では、先生たちの話がよくわかりませんでした。いつも見ていた瀋陽の景色と違って、高い建物もないし、道はとても暗かったです。また、とても蒸し暑く、呼吸がしづらかったです。寮に着いて、自分の部屋に入り、一年間国に帰れないことを思うと、涙が出てきました。日本の生活に慣れるまでは大変でした。初めて学校に来た時は、学校のルールもわからなかったし、日本語もあまり上手ではありませんでした。

でも、一ヶ月経ったころから、中国に帰りたかった気持ちがだんだん変わってきました。学校や寮の中での生活に慣れたことや、友達がたくさんできたことが気持ちの変化につながったと思います。学校のいろいろな行事を参加しました。学園祭で、調理科が作った箸巻きやたこ焼きや鶏の炭火焼きなどがとても美味しかったです。ステージ発表では弓道部の顧問の先生が歌を歌ってくれました。初めて先生の歌ってる姿を見ました。今年2月の時、修学旅行を参加しました。みんなと一緒に東京に行って、原宿に行ったり、ディズニーランドで遊んだりしました。遠足は、中国の遠足と全然違います。朝、自分たちで現地に集合して、ボーリングをしたり、科学技術館に行って、プラネタリウムの星を見たりしました。中国の遠足はお昼から、歩きっぱなしなので、日本の遠足が楽しかったです。

私は弓道部に入っています。はじめは腕の力が足りず、ほかの部員のように上手な射形ができませんでした。でも、一週間ぐらい練習して、少し弓が引けるようになりました。的に当てるのはまだ難しかったけれど、毎日一生懸命練習して、たくさんの大会に出ることができました。県の高校総体では、女子団体が決勝戦まで残ることができました。負けて悔しかったけれど、毎日部員と頑張ってきて良かったです。

日本に来て、9ヶ月が過ぎました。日本語を読む、聞く、話すことはだいぶできるようになりました。みんなが話している内容がほとんどわかるようになりました。たまにわからない言葉があるけれど、みんなが教えてくれたらわかります。

毎日この学校で生活していると、自分が留学生ということを忘れてしまいます。この一年間で嬉しかったことや忘れられないことがたくさんありました。日本のことがもっと好きになり、国に帰りたくなくなりました。みんなと離れたくなくなりました。

私はいつか宮崎に戻ってきます。

みんなに会いたいから。

日章のみんな、またね！

# キセキ

鹿児島育英館高等学校 / 済南外国語学校
孫　榕
SUN Rong

「僕らの出会いがもし偶然ならば？運命ならば？君に巡り合えた、それって『奇跡』」（GReeeeNのキセキより引用）初めて「キセキ」を聞いた時は、寮のクリスマス会でした。お菓子も食べられるし、音楽室でカラオケもできるし、夜12時まで遊べる楽しい時でした。12時がどんどん近づいてきて、みんなが「キセキ」を終わりにしました。1列に並んで、手を隣の人の肩において、こうお互いに抱き合って、歌い始めた。私は初めて聞いたので、歌詞も分かったような分からないような感じで歌っていました。全然追いつかなかったけど、この歌のほがらかなメロディーに酔っていました。みんなが同じリズムに従って、同じ声で歌って、一体になったような楽しい雰囲気に酔っていました。

一年間、あっという間でした。

最初来た時は文化祭が終わった夕方でした。夕日で金色の紗に覆われたような山を見て、不安も楽しみも持ちながら、頭の中で自己紹介を練習しました。私が入る学年は6人しかいないと聞いた時、驚きましたが、だんだん時間が経って、今まで来ると、人数が少ないからこそ、みんなとこんなに仲良くできて、よかったと思うようになりました。

今振り返って見ると、この一年間で、つらかった時ももちろんあるけれども、たくさんのいい思い出も記憶の中に輝いています。妙円寺詣りの前に、一緒にわらじを作ったり、雪が降った朝、先輩に手袋を貸してもらって、雪対戦をしたり、正月友達の家にホームステイに行って、もちを作ったり、先生が着物を着させてくれて、一緒に初詣でに行ったり……

みんながくれた家族のようなやさしさは、いつまでも忘れられません。

「日々の中で小さな幸せ、見つけ重ね、ゆっくり歩いた『軌跡』。僕らの出会いは大きな世界で、小さな出来事、巡り合えた、それって『奇跡』」

鹿児島を離れたくない。鹿児島に来て、住めば住むほど好きになって来ました。毎日の電車の中で揺れながら、外の景色を見て、こう思いました。緑も多くて、海も近くて、空気もきれいで、住みやすい町です。桜島も毎日違って、陽光に当てて、うららかな時もあるし、曇りに覆われて、ぼんやりしている時もあるし、冬の朝、雪が積もっている時もありました。クラスメイトのお母さんに連れてもらって、一回遊びに行きました。フェリーに乗って、車で回って、山に登って、風がすごく強かったけど、桜島は遠くから見るよりも美しかったです。

人情味も鹿児島の美しさの一部分だと思います。外国人はよく日本人にクールなイメージを持っていますが、鹿児島に来て、誰でも熱心に色々教えてくれて、暖かさしか、感じられなかったんです。

軌跡と奇跡。

この一年間の軌跡は順風満帆ではなく、曲がりくねっていました。中国とまったく違う寮生活から、毎日3時間の通学まで、たくさんのことが体験できました。大変もあるけど、自分が幸運だと思っています。寮でも友達ができて、やさしいホストファミリーとも出会って、よかったです。

鹿児島に来て、よかったです。

一年間みんながそばにいてくれて、よかったです。

ありがたいことが多すぎて、言い切れないぐらいです。

やはり、出会いと言えば、「縁」というより、「奇跡」だと思っています。

「ありがとうや、Ah ～愛してるじゃまだ、足りないけど、せめていわせて、幸せですと」

# 縁を結ぶ、縁は続く

鹿児島県立武岡台高等学校 / 東北育才学校
夏　夢琦
XIA Mengqi

日本、九州、鹿児島。
私が約一年間留学生活を過ごした所、ここは私の日本の故郷です。

明治維新150周年、大河ドラマ「西郷どん」の維新ふるさと鹿児島の地で、約一年間私のホストファミリーの松木場家と本当に大切な縁を結ぶ事が出来ました。私はホストファミリーと一緒に温泉に行ったり、たくさんの名所をトライブしたり、そうめん流し、ラーメン、さつま揚げ、きびなご、鳥刺しなど、鹿児島の名物をたくさん食べたりしました。また、武岡台高校の三年三組の生徒として、本当のＪＫになり、桜島で人生初めて５キロを走り、初めての野球応援、文化祭、錦武戦、遠足、修学旅行、桜島の降灰、初めての梅雨、初めての手作りバレンタインクッキー、また、一期一会の茶道などの貴重な体験をする事が出来ました。

しかし、昨年九月鹿児島に来た最初の頃の私は、確かにたくさんのストレスを感じていました。
ずっと中国の寮で生活していた私が、毎日の通学になり、そして、留学生としてホストファミリーのお父さんお母さんと何を喋ればいいのか、悩み事をどう言うべきなのか、など全く分からない状態から、だんだんと他人とのコミュニケーションを取る難しさや、自分にとって問題がある事にも気づく事が出来ました。

今も、お父さんお母さんからのアドバイスを頂き、他人の気持ちをちゃんと考えながら喋れる人になる様に頑張っています。毎日、お父さんと新聞を音読したりして、お父さんはもう私の日本語の先生になりました。

お母さんとお姉さんは私に浴衣の着付け方から日本料理の作り方まで、たくさん教えてくれたりして、鹿児島に来て、新しい発見、新しい収穫を見つける事が出来、ほぼ充実した毎日を送る事が出来ました。

お父さんと話をすると、お父さんはいつも平仮名で四つ「いまから」という表現を使います。

最初来た頃、お父さんからの「今から」という言葉を聞きましたが、私は意味をちゃんと理解する事が出来ませんでした。留学生活が始まったばかりだったので、日本の生活に慣れる為にはたくさん努力をしないといけないという意味だと後で分かりました。

最近、そろそろ帰る時期になっても、また、お父さんはよく「今から」と私に話します。鹿児島から帰国して、私を待っているのは、大学受験、就職等の社会に入る事です。その、一つ一つの目標を実現する事はお父さんの言う「今から」しないといけない事だと理解しています。私にとって、帰国する事は終わりではなくて、新しい自分との出会い、また、新しいスタートだと思います。

また、お母さんは「私たちの魂は前世から繋がっているからこそ、縁を結ぶ事ができ、この世で会える事が出来たのではないだろうか」と話をしていました。将来、自分が先輩と同じ様に鹿児島に帰ってくると思うけど、今、この文章を書いている時の気持ちは、二度と戻れないと思うから、この今の気持ちを大切にし、この縁を大切に続けられるよう頑張りたいと思います。

また、今は、もっともっと多くの人達と心を結び合って行きたいと願っています。

# ワンシーンは永遠に

神村学園高等部／深圳外国語学校
丁　博思
DING Bosi

去年の八月、私はまだ中国にいた時、日中交流センターから受け入れの学校の紹介資料をもらいました。もっと知りたくて、ネットで「神村学園」を検索してみました。「この学校の人はどんな人だろう」、「どんなクラスに入るのだろう」、「自分が神村の制服を着たらどうなるだろう」、「かわいい子やかっこいい子がいるだろうか」と、いっぱいイメージして、東京から鹿児島に向かう飛行機の中でも待ちきれず、隣に座っていた留学生の友達に話しかけたら、「もう、少し落ち着きなさい」と言われました。

待ちに待った登校初日、担任の内田先生の後について教室に向かう時、緊張しすぎて、指先まで冷たくなってしまいました。しかし、教室に入る前、外にいたクラスの女の子に「中国からの留学生ですか？你好！」と話しかけられて、その言葉と微笑みで緊張がほぐれました。無事に自己紹介ができて、私は英語コースの一生徒としての生活がスタートしました。最初、教科書をもらっていなかったため、隣の席の子が教科書を見せてくれました。また、困っている私を見て、机をくっつけて、マンツーマンで優しく丁寧に教えてくれました。休みの時間も、クラスのみんなが話しかけてくれて、私のことや中国のことについて質問してくれました。その時、まだみんなの普通の話スピードに耳がついていけなくて、「聞き取れなかったら、どうしよう」と心配しましたが、みんなが心をこめて受け入れてくれて、「大丈夫」と言ってくれて、本当にありがたかったです。今の私はまだまだ足りないところがいろいろありますが、昔の私よりけっこうできるようになりました。みんながいなかったら、今の私もいないでしょう。

この学校でもう一つ楽しみなことがあります。それはダンス部に入ったことです。来る前に、学校のパンフレットに載っていたダンス部の紹介を見て、ダンスが大好きな私はその時から「ダンス部に入りたい」という気持ちを持ち始めました。去年の体育祭で初めてダンス部のパフォーマンスを見て、とてもかっこよくて、「よし、ダンス部に入ろう」と決めて、入部届けを出しました。ダンス部に入ってから、他のコースの人とも出会えて、仲良くしてくれる同級生もいて、分からないときに教えてくれる先輩もいます。ダンス部に入部できて、ダンス部のみなさんと一緒に練習して頑張って強くなることができて、本当にうれしいです。

学校のこと以外で、一番話したいのは私が今お世話になっているホームステイ先の沼田さんのことです。初めて出会ったのは鹿児島空港でした。家族のみんなは明るくて、空港から家までの車の中でも音楽をかけて、面白い話をしたりして、まだ初対面なのにとても盛り上がりました。中国では寮生活で、週末に家に帰っても夕方まで塾があって、家族と家でのんびり過ごす時間が少ないので、ずっとこんな家族の雰囲気に憧れていました。でも、幸せなことに、こんないい人たちが私のホストファミリーになりました。優しくお喋りが好きなお母さん、よく面白いネタで笑わせてくれるお父さん、意味がわからないけど面白い鹿児島弁を言っているおばあちゃん、いつも元気で明るいお兄さんとお姉さん、あと二匹の可愛い犬プーちゃんとチップ君、いつの間にか、私もこの家族の一員になりました。朝家を出るとき、「行ってきます」と言ったら、「いってらっしゃい！今日も頑張ってね」と返してくれて、夜帰ってくるとき、「ただいま」と言ったら、「お帰り」と返してくれて、家の犬も喜んでお出迎えしてくれます。「今日はどうだった？」と聞いてくれて、悩みがあるときも相談にのってくれます。週末や休みの時も、家族みんなで旅行に出かけて、とても充実しています。「夢じゃなくてよかった」といつもそう思っています。感謝の気持ちでいっぱいです。

振り返って見たら、来る前の楽しみ、初めて出会ったドキドキ、最後に帰りたくない思い、この一年間、いいえ、この３０３日間、一日一日まるで映画のようでした。「もうカウントダウンに入ってしまったか、もうちょっと時間をのばしたいなあ」「クラスのみんなと一緒に卒業までここにいたいなあ」「もっと長くホストファミリーと楽しく過ごしたいなあ」と、いろいろしたいことがあります。残念ながら、できないこともありますが、これまでの留学生活にとても満足しています。本当にみんながいて、みんなと出会えて、よかったです。

みなさん、今まで、どうもあいがとうさげもした！

# オワリはじまり

沖縄県立向陽高等学校 / 南昌外国語学校
万　天怡
WAN TianYi

「旅立ちの時はいつだって、少し怖いけど、それも希望の形だって。思い出にかわるのはきっと最後の最後さ。笑ってさよならを言えたらいいな---。」これは沖縄出身のバンド「かりゆし５８」の歌「オワリはじまり」です。留学生活がもうすぐ終わります、時間がすぎるのは本当に早いと思います。最初日本に来たときの緊張と不安はまるで昨日のようです。もし私が魔法を使えるなら、時間を止めたいです！

最初、自分が留学しに行くところが沖縄で知ったとき、ほっとしました。なぜならば、冬が寒くないからです。沖縄に来る前は、沖縄は観光地であり、海がきれいな島という印象でした。自分がそこで地元の人たちと暮らすことが全然想像できませんでした。でも、実際沖縄に行くと、それが余計な心配だったということを知りました。さすがに暑い沖縄で生活しているだけあって、沖縄の人たちはとても親切でした。ここで、私は地元の人と一緒に住んで、一緒にご飯を食べて、一緒に学校に行って、一緒に遊んで、体と心で両国の文化の違いを体験しました。友達と両国の違いを交流することは大好きです。私は強い覚悟を持って、親と離れて、一人で日本に行きました。今、ちょっと「大人になったな」と感じています。自分のことは全部自分でやらないといけないので、親と暮らしているときの「便利な生活」とは違い、私はここでのルールを守らなければいけないなど、本当にたくさんのことを学ぶことができました。

私は沖縄でハンドボール部に入部しました。私は「ハンドボール」というスポーツを初めて知りました。面白いと思って、マネージャーとして入部しました。部員たちは可愛いくて、優しくて、面白い。私もすぐ部員たちと仲良くなりました。5月２６日のインターハイ沖縄大会ではみんなが全力で戦う姿がとてもかっこよかったです。私もとても感動しました。短い時間だったけど、とても充実した時間を過ごせました。学校で、私は色々な行事に参加しました。例えば、野外実習、遠足、新歓…野外実習では、実際に教科書以外の知識を「学ぶ」ことができました。遠足では、三年生全員が「美らSUNビーチ」というところに行きました。名前の通り、眩しい光の下できれいな青い海がキラキラしていました。私たちはビーチバレーとBBQをしました。すごく楽しかっです。新歓は、全学年でのバレー試合です。とても熱い試合でした。

私は普段学校で寮に住んでいます。寮生全員とても明るくて、私がわからないところがあると優しく教えてくれます。寮生活は本当に楽しかったです。冬休みと春休みは、友達の家で泊まりました。みんなの家族はとても親切でした。いろんなところに連れて行ってくれました。友達４人で久米島にも行きました。本当に素晴らし島でした。海はとても綺麗で、海の底も見えました。ゼリーみたいでした。友達４人でいっぱい写真を撮りました。

私は留学中、よくこのオワリはじまりという歌を聞いていました。この歌の歌詞に、留学中の私はとても共感しました。最後にこの歌の歌詞を見てください：「またすぐ明日に変わる、忘れてしまっていないかい、残された日々の短さ、過ぎ行く時の早さを、一生なんて一瞬さ、命を燃やしているかい、かけがえのない時間を胸に刻み込んだかい。」

**楽しい時期も辛い時期も、一番近くで励まし、そして助けてくれたのは受入校の先生方、友達、ホストファミリーの方々でした。1年間お世話になったみなさまから、第12期生受入れのご感想をお寄せいただきました。**

受入校

## 施　奕璘さんを受け入れて

大阪府立三島高等学校2年4組（受入時のクラス）担任教諭　佐川 智美 先生

中国からの留学生を受け入れることになった、ついてはあなたのクラスの所属となると管理職に聞かされたとき、正直に「さて、大丈夫かしら」と一抹の不安を感じたことは否めません。なにせ私は外国語が大の苦手で十年以上習った英語ですら曖昧、中国語など使えるはずもありません。出来ないでは通らないだろうと書店で参考書を眺めもしてみましたが、広い国土ゆえもはや別言語なみに方言があると知って余計に途方に暮れたのも事実です。

しかし受け入れ当日、校長室で面会した施さんはたどたどしいとはいえ日本語を使いこなしており、驚くと同時に勤勉さに頭の下がる思いがしました。それは我がクラスの生徒たちも同様だったようで「先生、私たち何も教えてあげられること無くない?」と大真面目に悩む生徒もいたほどです。そんな様子でしたので、施さんはきっと学ぶことを楽しみととらえることのできる熱心な性格で、これまで人一倍努力を続けてきたのだろうと察することが出来ました。ですからきっと、日本に滞在する限られた期間も沢山のことに好奇心旺盛に取り組んで自主的に学びに変えられるでしょう、ならば私は勉強面だけでなく遊びや楽しい経験を思い出として彼女のなかに残せるお手伝いをしようと思いました。

予想通り、彼女は本当に勤勉で好奇心旺盛な生徒でした。積極的に生徒たちと関わり、分からないことは分からないままで放っておけない様子でした。日本史や古典がわからない、と難しい顔をして尋ねられたときは私も深く考えず「まだ勉強し始めたばかりなんだし大丈夫よ」と返したのですが、その後古典の小テストで満点をとったと担当の先生に報告されたときは、彼女の学習への意欲を改めて感じたものです。クラスの生徒たちも、そんな施さんの姿を見て「エキリンは賢いから、割と何でも出来るらしい。なら自分が教えてあげられることを彼女に教えてあげよう」と考えを改めたようで特別何かをしてあげよう、という心持ちではなくクラスの一員として困っていれば手を貸してあげる、というように雰囲気が変化していきました。これは今思えば非常に良い傾向だったのではないかと思います。私自身、受け入れ前は完璧に彼女をサポートしなくては、と力が入っていましたので施さんと生徒たちに国際交流の正しい姿、大切なことを教えてもらったように思います。

年度替わりもありましたので、彼女の担任として過ごした期間は決して長くありませんし、どれだけ自分の役割を果たせたかは分かりません。それでも、施さんがこれから長い人生を送っていく中で、今回の留学が温かい思い出になってくれていれば嬉しく思います。

受入校

# 次の世代がつなぐ日中友好の絆

大口明光学園中学校・高等学校 教諭　田中 康裕 先生

創立58年目を迎えるカトリック系中高一貫の女子校である大口明光学園は，平成29年度に初めて心連心留学生2名を受け入れました。私たちは卒業生，在校生，保護者，本校に関わる全ての方々を明光ファミリーと呼んでいます。代澤瑞さんが9月から，韓浜澤さんが12月から明光ファミリーに加わり，本当にうれしかったことを覚えています。本校生徒の約半数は寮生であり，彼女たちは寮生活を送ることになりました。文化の違いや規則に戸惑い，慣れるのに苦労したようですが，持ち前の人柄の良さですぐに寮生とも仲良くなることができました。不自由の中に身を置くことによって彼女たちには新たな発見も多かったと思います。それと同時に，本校の生徒にも様々なよい影響を与えてくれました。

私たちが見習うべき2人に共通していた点は，目標を達成するための意志の強さと勤勉さです。代さんは来日当初日本語でのコミュニケーションに苦労していましたが，国語の添削指導をはじめ意欲的に学習を行い，半年程度でかなり日本語に習熟することができました。また日本近代文学を好み読書している姿をよく見かけました。また古典の授業中は漢文を中国語で読んだり，日本と中国の違いをユーモアたっぷりに教えてくれました。

韓さんは外国人による日本語弁論大会への出場に際して，納得できる原稿を作成する為日本語の細かなニュアンスの違いなどにも気を配り，私たちと校正を何度も繰り返しました。そして原稿が完成してからは読みの練習を徹底して行い，見事全国大会に出場することができました。心の中の見えない壁を「どこでもドア」に例え，日中友好の為に自分たちに何ができるのか，留学生ならではの視点で捉えた考えを述べ好評を得ました。

代さんも韓さんも将来は日本の大学に進学したいと話してくれていました。2人が在籍していたクラスの生徒達は大学生になってから胸を張って2人に会えるよう今を一生懸命やり抜こうというのが勉強に対するモチベーションの1つになっています。ただの友達ではなく切磋琢磨して高め合える関係こそがこれからの世代が築く日中友好の素地になるのではないでしょうか。彼女たちが一生の付き合いができることを願っています。最後になりますが，このような貴重な機会を与えてくださった日中交流センターの皆様にお礼を申し上げます。私たちは世界のどこにいても明光ファミリーという絆で繋がっていますよ。

ホスト
ファミリー

# 初めてのホストファミリーを経験して

陳 天行くんホストファミリー　祭貴 光章 様

私たち夫婦にとって長期ホームステイの生徒を受け入れることは初めてのことでした。

二人の息子が小学校から野球をやっていたこともあり，多くの子供たちを見てきましたが、 陳天行君は私たちが知っているどの子供とも違った個性を持った子でした。シャイで内向的で、自分から話題を見つけ会話をすることが苦手で，声も小さく，小動物も虫も苦手なおとなしい印象の子でした。なんとか帰国するまでにもっと気持ちの強い社交性のある人になってほしいなという思いを持ちました。叱咤と激励が必要なのかなと感じました。

心連心の他の生徒の日記を読んで，他の生徒がどんな意識を持っているのか、どの様な生活をしているのか、他家のホストファミリーがどのように対応されているのか参考にもさせていただき、陳君と向き合って過ごすことができました。心がけたことはできるだけ会話の時間を持とうであり、毎日の夕食は必ず一緒に取り雑談をするようにしました。

環境に慣れるまでの二か月程は私たちもしんどかったのですが，陳君は慣れない環境でもっとしんどかったでしょう。中国での日常生活や習慣を聞いて、日本とは特に価値観において大きく違っていることが分かり、十か月間日本での生活を続けることができるだろうか、帰りたいと言い出さないだろうかと心配しましたが、その心配は徒労に終わりました。

瞬発力はないけどコツコツ努力することと意外と打たれ強い（叱られても落ち込むことなく驚くほど立ち直りが早い）ことと感情の起伏が大きくなく切れることもないという、生まれながらにして持っている性格の長所からか，学校での先生や生徒の評価も良かったのは安心できた点です。授業も部活も休まなかった点も感心しました。

しんどかった二か月が過ぎてからは帰国するまで有意義な高校生活を満喫することができたと思います。土日も部活があり自由な時間が少ない中、たった一人で大阪、奈良、京都へも行きました。特に春以降は殆ど日本人の高校生になって，帰国までの間にクラスや部活で男子の友達が作れたことは当初はとても想像できなかったことです。残念ながら女子の友達は作れませんでしたが、男子の友達ができただけで十分な成果だったと思います。バスケの部活もしんどい、筋肉痛で苦しいからいつの間にか楽しい、休みたくない、もっと上達したいに変わり、経験したことのないことも辛いことも続ければ楽しいことに変わるんだという体験をしたことで、精神面で強くなりました。どこで生活しても，意味がない・価値がないものはないことをこの留学生活で体験できたのではと思います。

私たちにとって最も有意義だったのは、日々陳君の強くなっていく成長する姿を見られたことです。一緒に成長できたような気持ちです。この十か月の経験から私たちが学んだことは、ホストファミリーとしてすべきこととは生徒に安心で快適に生活できる日々の環境を提供してあげることそれだけだということです。安心して有意義な生活を送れれば，おのずと多くのことを吸収してくれます。

後悔しない留学生活にするには毎日を楽しく過ごすことが一番大切だと思います。日本語、異文化、習慣、価値観を勉強する中国人の留学生という意識ではなく、たった十か月の短い時間なのだから日本人の高校生になりきって日本の学校生活を楽しもうという意識を持つのがよいのではないでしょうか。自然にたくさんの知識が身につきます。同化してしまえば孤独になることもないし友達もできます。

十か月で陳君はもやしっ子から竹の子までしっかり成長しました。将来芯の強い簡単に折れない立派な大人の竹に成長することを期待しています。

ホスト
ファミリー

# 中国の孫との出遇い　―再会を楽しみに―

禹林強くんホストファミリー　原岡 信子 様

禹君と楽しく過ごした十一ヶ月を経て、母国に帰って早二ヶ月少々ですがあっという間の十一ヶ月でした。
禹君を迎える前は老老家庭に来てくれるだろうか？大丈夫だろうか？という不安と、反面絶対楽しく生活してもらおうと思っていました。禹君を迎える一週間前位からは迎える日を楽しみにしていました。

昨年九月七日、龍谷高校校長の喜多（私の次男）が夕方連れてきてくれた時に初対面で感じたことは「あっ我家の孫だ」ということでした。挨拶をして部屋の案内、お風呂、お手洗い、そして地区の決まり事等々夕食を摂りながら話をしました。一時間も話をしていると笑顔も見えるようになりました。禹君の部屋には市松人形を飾っていましたが、一夜明けると起きてきてから「部屋に人形があったので恐ろしくてドキドキしました」との事。「何か異常があったか」と問うたら「別になにもなかったです」と答えが返ってきました。その後は「私が好きで飾っているのに何もあるはずがない。安心しなさい。」と言って大笑いしたことでした。

一泊して翌日は「海を知らないし、船に乗ったことがない」という禹君を連れて、喜多と我家で唐津まで魚釣りに出かけ、船にも乗り、夕食には釣り上げた魚を食べられて大満足でした。その日から孫家族が来たので一晩で大勢八人家族になり、禹くんは曾孫たちを自分に妹ができたと喜んで面倒を見てくれました。かわいがってくれている様子を見ると二、三日前に我が家に来たとは思えないくらい家族に馴染んでくれていました。

翌日からは学校でしたが、「学校までの距離が十キロもあるのですか」と言いながらも筋力をつけると張り切って自転車通学をしてくれました。学校から帰宅したら友達のこと、部活動のことなど何でも話してくれました。運動関係の部活動はどこの国にもあるからと茶道部に入部し頑張りました。はじめは正座が苦手なようでしたが二ヶ月ほどもすると正座もできるようになり、我家に来客があった時はお抹茶を立ててお運びもし、来客の皆さんからお褒めの言葉をいただき大変嬉しいことでした。

来日して二週間ほど経ったところで、子どもや孫たち、叔父や叔母もあつまり禹君の歓迎会をしました。禹君のご両親にもテレビ電話で話をして喜んでもらいました。夕食後は毎日一時間ほど話をして幼い頃の話や両親のこと、中国での食べ物のことなどたくさんに話をしてくれました。

十月初旬には「季節の変わり目には衣替えするように部屋の中や食器も変え、季節を楽しむよ」と話をすると感心して聞いてくれました。畑の仕事も耕運機を使って手伝ってくれましたが、途中でカエルを見つけると追いかけ、やっぱり子供らしさも見えてとてもかわいい孫でした。

暮れの大掃除は垣根の剪定や窓磨きなど積極的に手伝ってくれましたし、町民体育大会には孫と一緒にリレーに出場し、地域の皆さんにもとても喜ばれていました。

学校で取材を受けた時は「何が一番楽しいですか」と質問され、「弁当を食べること」と答えていましたがそれを聞いて明日の弁当はもっと美味しく作ってやろうと、私自身更に張り切ることができました。

帰国近くになって長男（佐賀県教育庁勤務）が、九州大学の見学に連れていき、また満足してくれていたようです。その数日後は（歓迎会のメンバーで）送別会をし、学校の友人達からも数日間に渡ってたくさんおみやげを頂いていたようです。学校で教わったことで「自分一人では生きられない、周りの人たちに助けられている」という事を話してくれました。

そこで禹君にも「あなたは人間として魅力があり、人から好かれる性格でもある。教わったことは忘れないで立派に成人し欲しい。」と話したことでした。帰国する日は佐賀空港まで全員で見送りに行きましたが最後まで涙涙の別れでした。しかし私は「こしばらく中国へ留学させている。また来日してくれることだろう」思って再会を待つことにしています。

友達

## 申ちゃんとの1年を経て

日章学園高等学校 普通科3年A級　大脇 千穂里さん

私たちのクラスに、女の子の留学生が来ると聞いて、心から楽しみにしていました。
2年生の体育大会が終わった後、申雪晴ちゃんに初めて会うことができました。申ちゃんはとても優しく、明るい性格で、私の方がたくさん助けられました。申ちゃんは運動神経も良く、遠足で行ったボーリングやグラススキー、体育で行う卓球など、とても上手でびっくりしました。文化祭では、絵本の各場面を切り絵で作り、それを障子紙に貼って、ランプのようにするオブジェを制作しました。申ちゃんの切り絵もとても上手でした。また青島太平洋マラソンにボランティアとして参加したことも良い経験になったのではと思います。
また、日常生活では、英語を教えてもらったり、中国と日本の学校生活や文化の違いを話してもらったりしました。大変興味深く、中国という国がとても近くに感じました。申ちゃんは大切なクラスの一員でした。これからもその思いは変わりません。
申ちゃんと一緒に1年間を過ごすことができて、本当によかったです。また、宮崎に帰ってきてくれた時には、青い海を案内します。いつでも待っています。

2列目右側が大脇さん、3列目右が申さん

友達

## 娉ちゃんとの思い出

埼玉県立蕨高等学校 普通科2年3組　山本 千夏さん

江娉ちゃんとは初めて会ってからすぐに仲良くなることが出来ました。
娉ちゃんは何にでも積極的でいつも明るく、自分から喋ることが苦手な私はとても助けられました。そして、秋葉原のメイドカフェに行ったり、原宿の明治神宮に参拝しに行ったりしました。とても楽しい思い出です。また学校生活では、部活動の剣道のために朝早く起きて練習をし沢山怪我をするくらい熱心に励んでいて、自分も見習いたいと思いました。美術の授業では、娉ちゃんらしい上手で素敵な絵を見せてくれた時は驚きました。
お弁当を食べながら沢山おしゃべりをしました。日本のニュースや新聞は中国に悪い印象を与える報道をしているように感じますが、そのとき実際に娉ちゃんに中国のことを色々と教えてもらったことにより、中国は思っていたより良い国なんだと思いました。
娉ちゃんと私は生まれた国が違うだけで他は大して変わらない女子高校生です。刺激的な面白い11ヶ月でした。ありがとうございました。また日本に来て一緒に遊びに行くのを楽しみにしています。

前列中央が江さん、前列右から2番目が山本さん

# 受入校の声

中国は隣国でありながら、今でも中国のことを積極的に知ろうとする生徒は少ない。留学生を通して中国人の考え方、価値観、文化を垣間見ることができたと思う。

生徒たちが同年代の中国人の生活がどのようなものかを知り、いろいろな違いあるものの基本的には同じだということを知ることができた。

本当にクラスに馴染んでいて、クラスの一員として、異国で1人で頑張る姿は他の生徒にとって見本となっていた。

高校生の頃から世界に目を向けて生活している生徒がいることで、今後グローバルな視点で物事を考えることができると思う。お互いの国の文化や考え方を知ることができる良い機会となり、将来の仕事や目的を決めるきっかけにもなっていた。

本校の生徒たちの中国語のスキルアップにつながり、異文化を学ぶことができた。

授業でわからないことは授業後に積極的に先生に質問する態度や、定期テストで頑張っている姿、真面目な学習態度は他の生徒にとって良い刺激になったと思う。

# ホストファミリーの声

日本人と中国人の価値観は年々差がひろがっている。日本人の思考や価値観等を正しく理解するには、留学の体験が最も有効だと思う。

勉強・部活等一所懸命に取り組む姿は、家族にも良い影響を与えてくれました。

中国人の10代の子供達と接し、話をしたことは我が家にとってはとても新鮮で楽しい日々を過ごせました。これからも受入を続けたい。

“異文化”の交流は難しい。しかし大切なのは、お互いを尊重し認めあう事だと思う。せっかく“日本”という文化に接するのだから、素直に良い面も悪い面も見て、体感して中国に帰って欲しい。

受入前は中国人に対しての偏見が少なからずあったが、良い意味で覆してもらった。

私の家は兄弟姉妹が5人いるのでなんのためらいもなく打ち解けて本当に子供のようだったし、おばあちゃんにとっては孫のようになんの抵抗もなく、本当に楽しい日々でした。日本と中国が近くなり、家族全員が中国に行ってみたいと思うようになりました。

昔、私達が留学していた時代と違い、自由に母国にメールやTELが出来すぎて、留学先に慣れるまでに逆に時間がかかってしまうなぁと感じました。余程のことがない限り連絡はできるだけ控えさせた方が良いように思いました。

留学生の人格から、努力することの大切さ、そして多くの人たちとの交流の大切さを学びました。

# あとがき

2018年7月、第12期生28名が無事に帰国しました。

2017年9月に来日した30名のうち、2名は体調の関係で途中帰国となりましたが、2名も含め第12期生30名は、現在中国の元の在籍校で元気に高校生活を送っています。

私自身は2018年4月より事務局長に着任し、12期生の後半から彼らの生活を見守ることになりました。夏までにいくつかの学校には出張で訪問させていただきましたが、12期生全員と会えたのは中国へ帰る直前の帰国前研修でした。研修の総括の時間で一人一人が自身の留学生活を振り返る発表を聞き、またその後の帰国前報告会において、所長から一言ずつ声をかけられつつ一人一人修了証書を受け取る場面を見ながら、彼らの11ヶ月がどれだけ密度の濃い時間だったかを改めて感じ入りました。弓道や書道など日本ならではの部活動に懸命に取り組んだり、各地の日本語弁論大会で堂々とスピーチをしたり、ホストファミリーのご家族とかけがえのない絆を育んだり…。さまざまな形で一人一人が、「心連心」、まさに心と心をつなぐ交流をしてくれたことを、本当に嬉しく思います。

本事業の修了生は約4割が日本の大学へ進学したり、また大学卒業後日本の企業に就職したりして日本に長期滞在しています。中国で進学・就職している卒業生も日本研究の道に進んだり日系企業に就職するなど、まさに日本と中国の架け橋として活躍しています。第12期生も先輩方に続き、将来さらに立派に成長して活躍されることを確信するとともに、また日本、中国、または世界のどこかで、再会できることを心から楽しみにしております。

最後に、第12期生の日本滞在をずっと支えてくださった受入高校の先生方、ホストファミリーの皆様、そしてすべての関係者の皆様の日頃からのご尽力、ご支援に、心より深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

**国際交流基金　日中交流センター**

**事務局長　塩澤 雅代**

**心連心ウェブサイト**

日中両言語対応

http: ／／ www.chinacenter.jp ／

日中交流センターでは、日本と中国の将来を担う若者たちが心と心を結び合う“心連心”をテーマに、「高校生長期招へい事業」「中国ふれあいの場事業」「ネットワーク強化事業」を実施しています。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

発行　独立行政法人国際交流基金
日中交流センター

〒160-0004 東京都新宿区四谷4-16-3
TEL：03-5369-6074　FAX：03-5369-6043

2018年12月発行

Heart to Heart

JAPANFOUNDATION 国際交流基金 日中交流センター

〈協賛〉カシオ計算機株式会社、株式会社資生堂、株式会社三菱UFJ銀行